

令和3年度 診療科目目標発表



令和3年度 診療科目目標発表



総合内科



	氏名	役職
1	伊藤 裕司	部長（診療科長）兼臨床研修センター長
2	大瀬 紗子	部長

総合内科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	32.1人／日	33.2人／日
入院患者数	11.8人／日	10.0人／日
糖尿病紹介患者数	88人／年	25人／年
糖尿病栄養指導枠	6人／年	6人／年

DPC病名別症例数

DPC病名別症例数	R1	R2
2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く)	67人／年	24人／年
誤嚥性肺炎	31人／年	18人／年
副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍	15人／年	17人／年
腎臓または尿路の感染症	24人／年	16人／年
穿孔又は膿瘍を伴わない憩室疾患	2人／年	11人／年



総合内科

入院患者の内訳

期間	担当患者総数	主科入院	副科
2015年4月-2016年3月	560人	528人；うち入院後転科 22人 (緊急入院 475人；90%)	32人
2016年4月-2017年3月	570人	539人；うち入院後転科 32人 (緊急入院 458人；85%)	31人
2017年4月-2018年3月	541人	510人；うち入院後転科 25人 (緊急入院 459人；90%)	31人
2018年4月-2019年3月	381人	331人；うち入院後転科 12人 (緊急入院 239人；72%)	50人
2019年4月-2020年3月	410人	362人；うち入院後転科 9人 (緊急入院 260人；72%)	48人
2020年4月-2021年3月	324人	275人；うち入院後転科 11人 (緊急入院 218人；79%)	49人

4



総合内科

中期目標

5年後の目指す姿

?????

1-2年の中で、専攻医研修プログラムを充足させる

漢方科・漢方外来の独立

5



総合内科

令和3年度 > 目標

医療の質

基幹病院の総合診療医としての機能向上

項目	目標
1 内科専攻医研修の充実	外来・病棟業務のサポートの拡大
2 専門医不在領域のカバー	根拠に基づいた診療に取り組む

6

教育研修

数年后に必要となることへの投資

項目	目標
1 初期研修医教育	14人の1年次研修医を全員当科で担当する
2 災害時の糖尿病支援体制確立	行動計画の策定

- 2 -



総合内科

令和3年度 > 目標

中東遠総合医療センター 入院契機病名調べ

期間	糖尿病急性期合併症の入院患者数
2016年4月～2017年3月	24人（低血糖 10人、高血糖 14人）
2017年4月～2018年3月	29人（低血糖 14人、高血糖 15人）
2018年4月～2019年3月	32人（低血糖 17人、高血糖 15人）
2019年4月～2020年3月	34人（低血糖 18人、高血糖 16人）
2020年4月～2021年3月	35人（低血糖 12人、高血糖 23人）

7



アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	33.2人／日	?人／日
2	入院患者数	10.0人／日	?人／日
3	新入院患者数	22.1人／月	?人／月

- ・漢方外来をより充実したものとするために、院外へのアピールを引き続き行いつつ、大瀬医師の勉強する時間を確保する。
- ・当科に来た患者を全員診療する。
- ・どのような患者が来るかは経営戦略室に依頼中。

8 

決 意

専攻医教育の充実

当科の特色を打ち出せる仕組み作り

9 

令和3年度 診療科目目標発表

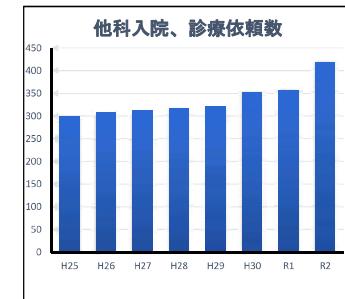
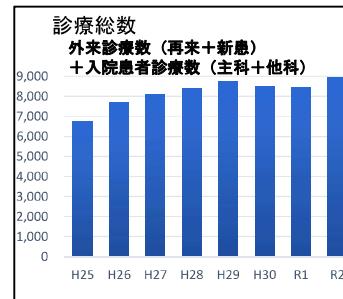
糖尿病・内分泌内科 Diabetes Medicine and Endocrinology



糖尿病・内分泌内科

A

当科の診療実績



- ・診療総数漸減の理由:受診間隔延長、逆紹介促進にて再来患者数の減少
- ・新規患者数(他科入院診療数+外来新患数)が増加。
→COVID-19感染の影響はなく、患者数は増加。
- ・他科からの入院診療の依頼が急増している。特に手術症例で顕著。

糖尿病・内分泌内科

B

糖尿病診療の現状を分析する

他科入院診療、依頼時のHbA1cの分布 (連続100例で調査)

	HbA1c	~7.9	8.0～8.9	9.0～9.9	10.0～
H30	6.2	1.8	4	1.6人	
R1	6.1	1.6	6	1.7	

血糖コントロール不良者が非常に多い。

- ①肥満患者の増加
- ②高齢患者の増加
- ③コロナ禍での受診控え、運動不足

糖尿病・内分泌内科

C

今後の展望

正しい糖尿病食事療法のポイント

①糖質制限

ブドウ糖が食後血糖値上昇の本体であって、
糖質が体脂肪増加の原因である。

②栄養保持

糖質制限にてカロリー不足のおそれ
→サルコペニアの原因

糖質制限の分、油脂摂取を増やす(油脂の摂取過剰は起こりにくいことは重要)。
蛋白質を不足ないように適切に摂取する。

C

今後の展望

食事療法を単独で行っても意味は小さい。
日常生活の身体活動に、食事療法と血糖降下薬を適切に組み合わせること。

<日吉の印象>

血糖コントロールの「決め手」の9割が食事療法。
正しい食事療法の実践にて、糖尿病医療費は大きく減少し、透析・失明・心血管疾患は激減するだろう。

13

C

今後の展望（宮地の視点）

- ・当院においては、他科入院中患者の糖尿病コントロールがより重要となる。
→術前症例では術後合併症の予防。
感染症例では炎症の治癒を促進。
- ・虚血性心疾患、心不全など循環器疾患において糖尿病治療薬が多く投与されるようになった。今後は循環器科と糖尿病内科と連携して治療することが必要である。
- ・検診で早期に糖尿病を見つけ、運動療法、食事療法でコントロールすることが重要。
⇒人間ドックをもっと利用してもらえるように啓蒙する。

14

15

16

令和3年度 診療科目目標発表

腎臓内科 Nephrology

腎臓内科

	氏名	役職
1	赤堀 利行	院長補佐 兼腎臓内科診療部長 兼感染対策管理室長
2	稻垣 浩司	部長 兼血液浄化センター長 兼臨床研修センター副センター長
3	高梨 昌浩	医長
4	峰田 直人	医長



腎臓内科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	28.6人／日	29.2人／日
入院患者数	22.2人／日	19.0人／日
手術件数（内シャント増設等）	7.0件／月	8.8件／月
PTA件数	71件／年	101件／年
腎生検件数	30件／年	40件／年
透析導入患者数	54件／年	74件／年
CAPD導入件数	1件／年	2件／年
腎移植導入件数	3件／年	1件／年

DPC病名別症例数	R1	R2
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	175人／年	181人／年
腎臓または尿路の感染症	30人／年	34人／年
肺炎等	38人／年	24人／年
心不全	27人／年	22人／年
誤嚥性肺炎	53人／年	21人／年

腎臓内科

中期目標 → 5年後の目指す姿

総合病院内透析センターとしての地位の確立

1)他科入院患者のAKI,CKD管理

2)災害拠点病院としての地域透析医療の連携充実



医療の質 腎臓系疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進

項目	目標
1 CKD+DKD患者に対する腎臓病教育・教育入院の実施	対象患者全員へ積極的推奨を行う
2 地域内におけるチーム医療の強化	地域医療機関との研修会等の実施

教育研修 大学との連携による教育体制強化
研修医の確保

項目	目標
1 大学と連携し教育レベルの向上を図る	大学と連携し教育レベルの向上を図る
2 教育体制の強化と研修医の確保	教育の充実を図り研修医確保につなげる

5

6



地域連携強化で信頼される腎臓内科に



慢性腎臓病（CKD）の治療及び患者さまへの教育を推進するとともに、シャント手術を伴う透析の新規導入患者さまについて、紹介・逆紹介の推進により地域の開業医との情報共有・連携を行ってまいります。

地域の基幹病院として、患者さまからだけでなく、開業医からも信頼される腎臓内科を目指します。

7

8



ウィズコロナの戦略

項目	令和2年度目標	令和2年度実績	令和3年度目標
1 外来患者数	30人／日	29.2人／日	30人／日
2 入院患者数	20人／日	19.0人／日	20人／日
3 新入院患者数	40人／月	40.4人／月	40人／月
4 血液透析センター入外件数	1,450人／月	1,369人／月	1,400人／月

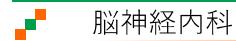
- COVID-19血液透析患者入院要請への対応
時間的・空間的隔離確保するため火木土PM・DフロアのCOVID-19感染透析専用体制を継続する。
- 血液透析患者の新型コロナワクチン接種の早期完了を目指す。

決 意

診療レベルの向上と
地域連携の強化により
信頼される腎臓内科として
地域医療に貢献します

令和3年度 診療科目目標発表

脳神経内科 Neurology



脳神経内科



脳神経内科 Neurology



主な診療実績	R1	R2
外来患者数	43.3人／日	43.8人／日
入院患者数	20.2人／日	19.3人／日
睡眠入院検査実施件数	33.3件／月	30.3件／月

DPC病名別症例数	R1	R2
睡眠時無呼吸	313人／年	244人／年
脳梗塞	87人／年	116人／年
睡眠障害	81人／年	109人／年
てんかん	55人／年	37人／年
運動ニューロン疾患等	21人／年	20人／年

	氏名	役職
1	若井 正一	副院長兼診療部長兼睡眠医療センター長 兼認知症疾患医療センター長兼人間ドック・健診センター長
2	吉村 崇志	医長

医療の質 神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化

項目	目標
1 認知症疾患医療センターの体制強化	認知症疾患医療センター患者数 950人／年
2 認知症ケア加算1の堅持	スタッフ配置による診療の充実と加算の算定

教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

項目	目標
1 教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化を図り研修医の確保につなげる
2 内科専攻医への教育を充実	教育プログラムの確実な実施により優秀な内科医を育成する

33

脳神経内科としての専門性の発揮

中東遠ならびに志太榛原は脳神経内科の診療を行う総合病院が少ない地域です。

当院はCT、MRI、SPECT、脳波検査装置、終夜睡眠ポリグラフィ検査装置、PET-CTなど、脳神経内科の診療に必要な機器が揃っています。

最新機器と専門的なスキルにより専門性の高い診療を行ってまいります。

35

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	43.8人／日	46.0人／日
2	入院患者数	19.3人／日	21.0人／日
3	新入院患者数	59.3人／月	61.0人／月
4	睡眠入院検査	30.25件／月	34.0件／月

①無理に外来で診療をしようとせずに、入院でしっかり診断し、治療方針を立てて外来フォローとする。

②脳梗塞の担当曜日が増えたため、脳梗塞の入院は増えることが予想される。

34

大学との共同研究

①名古屋大学医学部附属病院 脳神経内科
「レビー小体型認知症の研究」

②名古屋大学医学部附属病院 医学系研究科
「睡眠時の自律神経活動の研究」

36

今後の認知症医療の可能性

本年6月に米国にてFDA（アメリカ食品医薬品局）が、条件付きながら Aducanumabをアルツハイマー病の治療薬に承認しました。

これは、従来薬とは異なり、**病気の本態を治療する薬物**です。その意味で、これはアルツハイマー病の薬物治療のブレークスルーです。

本邦でも承認申請が出されており、現在、厚生労働省が承認の可否を検討中です。

我が国において承認されれば、認知症の診療は新たなステージに入ることになるはずです。

その際には**当院でも積極的に取り組む**つもりです。

37

決 意

脳神経内科としての
専門性を発揮し
地域の医療水準向上を
図ります

38

39

40

令和3年度 診療科目目標発表

呼吸器内科 Respiratory Medicine

呼吸器内科



	氏名	役職	卒年
1	小沢 直也	部長（診療科長）	平成20年卒
2	二村 圭祐	医長	平成25年卒
3	三上 智	医長	平成26年卒
4	長崎 公彦	医長	平成28年卒
5	柴田 立雨	医員	平成29年卒

呼吸器内科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	51.9人／日	50.7人／日
入院患者数	45.0人／日	41.7人／日
肺がん入院症例数	26.6人／月	26.3人／月

DPC病名別症例数	R1	R2
肺の悪性腫瘍	319人／年	290人／年
その他の感染症Covid-19含む	0人／年	141人／年
肺炎等	175人／年	98人／年
誤嚥性肺炎	126人／年	88人／年
間質性肺炎	86人／年	73人／年

呼吸器内科

中期目標

5年後の目指す姿

関わる人が皆、幸せな科づくり

5名以上の常勤医で呼吸器科が存在すること

教育熱心な科として存在すること

患者だけでなく、医療者も含めた満足度が高いこと

医療の質 手術対象症例を含む呼吸器系疾患全般に対する診療の充実の推進

	項目	目標
1	肺癌治療の質向上	他院と比較して遜色のないがん治療を目指す ・50%以上の進行肺癌に対してマルチ遺伝子検査を行えるような検体採取を目指す ・クリニカルパスの作成
2	チーム医療の充実	病棟間の統一を図れるような学習会を
3	医療連携	医療連携の勉強会開催

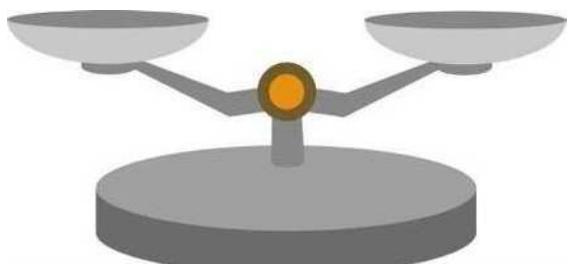
教育研修 専修医および研修医への熱い指導とスタッフ自体の知識、技術の向上

	項目	目標
1	専攻医および研修医への指導	屋根瓦方式(上級医-専攻医-研修医)の継続 上級医も若手も教えることで成長を専攻医の確保
2	学会・論文でのアウトプット	学会発表3件/年、論文発表1件/年を目指す

風通しのよい、活気のあるチーム メリハリをつけた働き方

チャットアプリによる連携
質問・報告しやすい環境作り
完全主治医制→チーム制

自分の担当時間には責任を
積極的な教育
学会、論文などのoutput



アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	50.7人／日	50人／日
2	入院患者数	41.7人／日	45人／日
3	新入院患者数	90.8人／月	95人／月

- ・COVID-19 第5波に備える
- ・高齢肺癌の増加：短期入院化学療法のニーズにこたえる
- ・誤嚥性肺炎の増加：多職種、各部署で協力して加算を

決 意

- ✓ 肺癌をはじめとした呼吸器系疾患に対する診療の質向上により地域医療に貢献します。
- ✓ 患者が満足するだけでなく、医療者が楽しくやりがいのある仕事ができるように努力します。

令和3年度 診療科目目標発表

消化器内科 Gastroenterology

消化器内科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	67.8人／日	47.0人／日
入院患者数	40.4人／日	27.0人／日
内視鏡総検査件数	584件／月	349件／月

DPC病名別症例数	R1	R2
胆管(肝内外)結石、胆管炎	141人／年	95人／年
胃の悪性腫瘍	128人／年	94人／年
肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む)	72人／年	62人／年
食道の悪性腫瘍(頸部を含む)	64人／年	61人／年
膵臓、脾臓の腫瘍	48人／年	58人／年

消化器内科



	氏名	役職
1	高柳 正弘	統括診療部長
2	細野 功	部長兼内視鏡センター長
3	松葉 朋彦	医長
4	名嘉原 忠博	医員兼救急科医員

消化器内科

中期目標 ➡ 5年後の目指す姿

体制強化による地域医療への貢献

- ・診療体制の強化（医師の増員）
- ・研修機能の充実（研修医の確保）
- ・消化器系疾患に対する基幹病院としての役割を果たす！

医療の質 連携強化による消化器系疾患への対応強化

項目	目標
1 消化器病センターの体制強化	紹介患者の確実な受け入れ
2 ドック・検診の再検患者への対応強化	再検査の受入強化 550件／年
3 C型慢性肝炎の標準治療の変更に伴う、治療可能な患者への提案強化	必要な患者全例への提案

教育研修 専攻医の獲得と診療体制の維持

項目	目標
1 常勤医師の増員	常勤医師の増員
2 教育体制の強化と専攻医の確保	専攻医の確保

53

54

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	47.0人／日	60.0人／日
2	入院患者数	27.0人／日	30.0人／日
3	新入院患者数	63.9人／月	70.0人／月

医師不足の現状を踏まえて、無理なく継続可能な範囲で、事故なく、安全に実施できる医療を目指す。

**内視鏡検査で病変の早期発見・早期治療**

当科は、内視鏡・内視鏡的超音波検査による上部消化管・下部消化管のスクリーニング・精査、腹部超音波(エコー)・CT・MRI・PET検査による肝臓・胆管胆嚢・脾臓などのスクリーニング・精査等を実施しています。

人間ドックにおける胃カメラの需要も高まっていることから、当科としては人員体制の強化を図り、病変の早期発見・早期治療に貢献してまいります。

55

決 意

消化器疾患への迅速かつ適切な診療とがんの早期発見・早期治療に貢献します

56

令和3年度 診療科目目標発表



循環器内科 Cardiology

医師紹介



循環器内科

チーム医療を重視・モットーとしています
そして、～開院以降、**循環器内科への紹介患者さんは内容を問わず速やかに受け入れ、「絶対に断わらず適切に診療する」、を維持継続しています**



58

循環器内科の多種多様な猛者たち <～医師である前に一人の人間として～>

57

紅林伸丈 診療部長 人物像：用意周到	森川修司 統括診療部長 目標：家庭円満	高山洋平 部長 人物像：思慮分別
大鍛崇志 部長 人物像：聖人君子	城向裕美子 部長 人物像：才色兼備	
黒部将成 医長 人物像：積極果敢	岩脇友哉 医長 人物像：内柔外剛	井上直也 医長 人物像：試行錯誤
	三科貴 後期研修医 人物像：無我夢中	

60

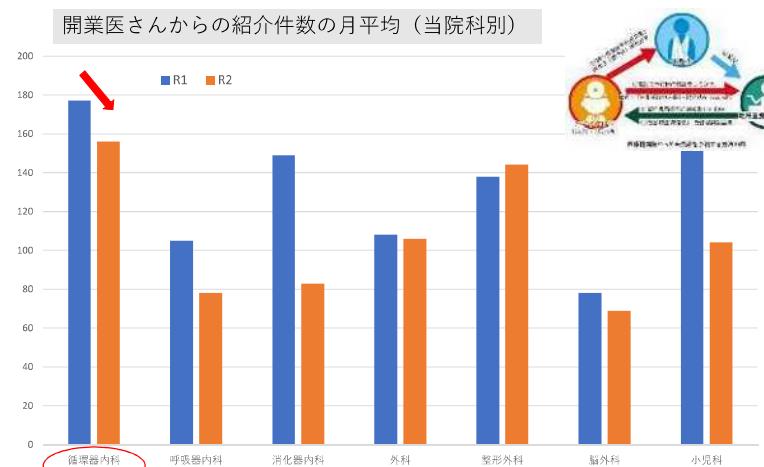
診療内容と実績

働く
とい
う事
は違
うよ
働く
され
る事と
…

61

62

循環器内科



63

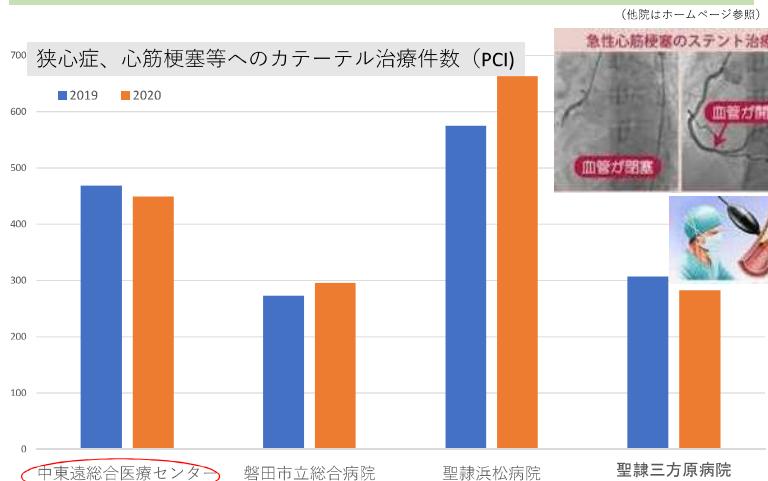
循環器内科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	77.4人／日	72.4人／日
入院患者数	51.8人／日	45.1人／日
PCI（心臓）件数	457件／年	442件／年
EVT（下肢）件数	90件／年	81件／年
アブレーション（不整脈）件数	162件／年	179件／年

DPC病名別症例数	R1	R2
狭心症、慢性虚血性心疾患	723人／年	590人／年
心不全	387人／年	356人／年
頻脈性不整脈	192人／年	211人／年
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む)	130人／年	132人／年
再発性心筋梗塞	107人／年	121人／年
閉塞性動脈疾患	107人／年	121人／年

循環器内科

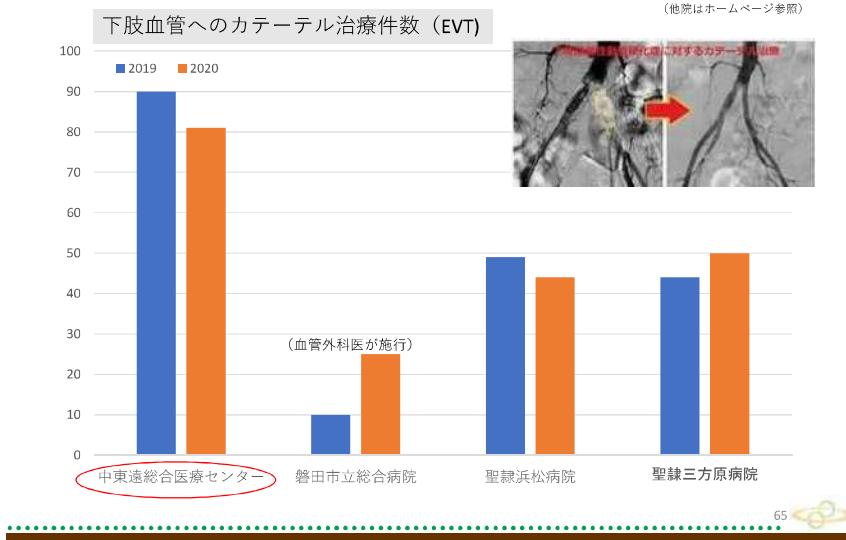
磐田市立総合病院、両聖隸病院：循環器内科とのカテーテル治療件数の比較



64

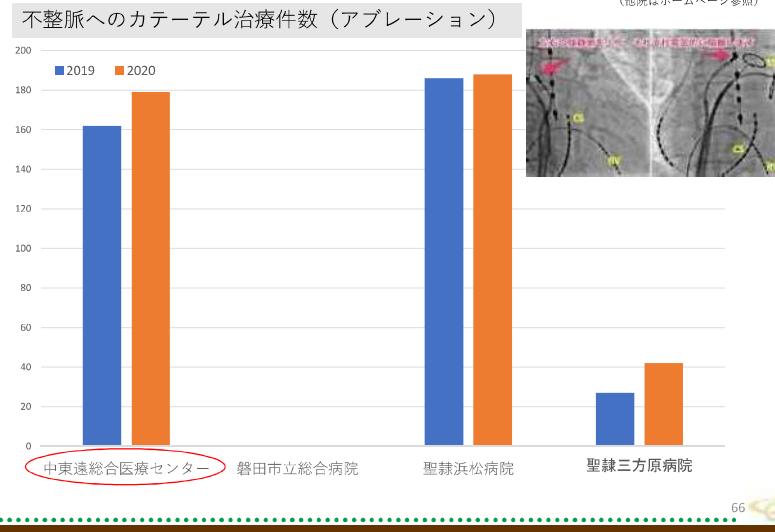
循環器内科

磐田市立総合病院、両聖隸病院：循環器内科とのカテーテル治療件数の比較
(他院はホームページ参照)



循環器内科

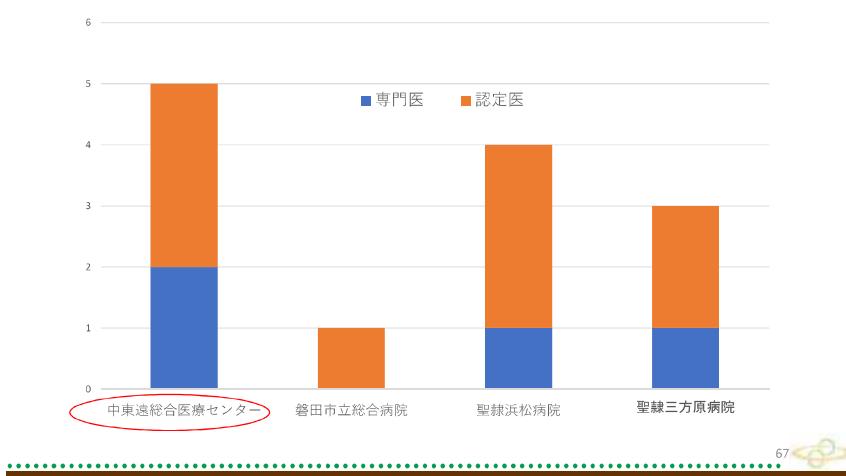
磐田市立総合病院、両聖隸病院：循環器内科とのカテーテル治療件数の比較
(他院はホームページ参照)



循環器内科

磐田市立総合病院、両聖隸病院：循環器内科とのカテーテル治療件数の比較
(他院はホームページ参照)

カテーテル治療の専門医・認定医の医師数



循環器内科のこれから・・

循環器内科

医療の質

開院以降、変わらず24時間365日、循環器系疾患を絶対断らない
診療体制の継続維持と地域連携の強化

令和3年度 ➤ 目標

項目	目標
1 24時間365日体制の確保	診療スタッフのモチベーション・スキルアップと断らない診療体制の確保
2 地域医療連携に関する勉強会の開催	3回／年
3 地域連携の更なる強化	迅速、かつ質の高い診療の提供 → 紹介件数のさらなる増加

教育研修 充実した指導体制による研修医・後期研修医指導を強化し良医を育成する

項目	目標
1 教育の充実	・教育水準の向上、到達目標の明確化 ・多くの症例数を経験し、研修医・後期研修医のみでなく循環器医・スタッフの知識・技術の向上
2 英語の勉強会の実施	4回／月
3 学会活動への参加	研修医・後期研修医の発表を促進 (その他の当科医師全員、最低年2回程度の学会発表の推進)



循環器内科

令和3年度 ➤ 目標

アフターコロナの出口戦略

項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1 紹介患者数	156人／月	170人／月
2 PCI（心臓）	442人／年	450人／年
3 EVT（下肢）	81人／年	100人／年
4 アブレーション（不整脈）	179人／年	200人／年

コロナと一緒に心臓も治癒する

近医総合病院や開業医さんに、より信頼される循環器内科を目指し、コロナ患者の増加に負けないくらい循環器疾患の紹介患者さんを増やす

カテーテル検査・治療の件数を増やす

→

★チーム医療で真摯に診療し、検査・治療の質、医療の質を向上する

★引き続き循環器内科への紹介患者さんは全て受け入れ絶対に断らない

★開業医さんや近医総合病院への定期的な挨拶回りの継続、勉強会等により信頼関係を深める



循環器内科

中期目標 ➤ 5年間での目指す姿

県内屈指の心血管診療機能の獲得

✓ R4年：心臓外科医の招聘による循環器センターの開設

✓ R6年：ハートチームによる最高水準の医療を提供する

✓ R8年：ハートチームにより緊急疾患を含めた心大血管疾患全ての治療を当院で完結できる体制を目指す



循環器内科

令和3年度 ➤ 目標

アフターコロナの出口戦略

循環器内科

虚血性心疾患や下肢閉塞性動脈硬化症の症例数は 県内屈指／不整脈に対するアブレーションも急速に増加



当診療科は、中東遠医療圏の心血管疾患治療における中核施設として、各々モチベーションを高く持った充実したスタッフ体制のもと、年間約2,000人の患者さまを入院で受け入れています。また、急性心筋梗塞や急性心不全等の救急患者さまに対しても24時間365日、診断・治療を迅速に行うことができます。

心臓外科の招聘もやっと目途が立ち、さらなる診療の質向上を目指すとともに、研修医を含めた循環器内科医師全員のスキルアップに努めてまいります。





決 意

多職種を含めたチーム医療のもと、引き続き24時間365日絶対に断らず、より質の高い診療をすることで地域医療に貢献します
(当科は磐田に比較的近い袋井市北部の患者さんも、当院当科を信頼して頂き受診して頂けます様、引き続き全力で努力致します！！)



73

74

令和3年度 診療科目目標発表

外科 Surgery

外科



	氏名	役職
1	宮地 正彦	企業長兼院長兼消化器病センター顧問
2	久世 真悟	副院長兼外科（統括）診療部長兼血管外科診療部長兼乳腺外科診療部長
3	京兼 隆典	医務局長兼外科診療部長兼消化器外科（統括）診療部長兼消化器病センター長兼地域医療支援センター長
4	河合 徹	診療部長兼消化器外科診療部長兼呼吸器外科診療部長兼手術センター副センター長兼教育研修センター長
5	川合 亮佑	診療部長兼消化器外科診療部長
6	柏場 利貞	診療部長兼消化器外科診療部長
7	山崎 公稔	部長
8	中橋 剛一	部長
9	長谷川 康哉	医員
10	古橋 広樹	医員兼救急科医員

78

外科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	76.1人／日	74.8人／日
入院患者数	32.1人／日	31.4人／日
手術件数	70.4件／月	62.0件／月

DPC病名別症例数	R1	R2
鼠径ヘルニア	160人／年	143人／年
虫垂炎	96人／年	116人／年
ヘルニアの記載のない腸閉塞	107人／年	107人／年
結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	106人／年	94人／年
胆囊炎等	36人／年	76人／年

外科

中期目標 → 5年後の目指す姿

県内屈指のがん診療機能の獲得

- ・ 地域がん診療連携拠点病院を目指す。
- ・ 地域内完結型がん医療提供体制の構築。

80



医療の質 外科領域手術の拡大と最先端医療への対応

項目	目標
1 外科領域手術の拡大	大学との連携による呼吸器外科、小児外科手術症例数増加。
2 乳腺外科領域に対する診療強化	3Dマンモグラフィーを活用した乳がん検診の拡大と症例数増加。地域連携バスによるかかりつけ医と協力した医療体制の強化。
3 腹腔鏡下手術、難治・進行消化器がん手術など消化器手術の強化	消化器病センターとの連携、開業医や圏域住民への当科診療内容に関する情報提供により、手術症例数を令和元年度のレベルに戻す。
4 手術支援ロボット（Da Vinci）活用	直腸癌に対するロボット支援手術の症例数増加。胃がん手術における手術支援ロボットの利用開始。

教育研修 専攻医の確保

項目	目標
1 教育体制を強化し専攻医を確保	外科領域に関する教育指導を徹底し、外科医志望の専攻医を毎年1名確保する。

81

82



● 消化器がん治療 → 低侵襲治療

腹腔鏡下手術：症例数増加。
ロボット支援手術：軌道に乗せる。

→ 高侵襲治療

難治・進行消化器がん：
短期長期成績のさらなる改善。

● 乳がん治療 → 乳がん専門医の獲得

乳房再建などさまざまな施設認定の
取得に繋がる。

● 肺がん治療 → 呼吸器外科常勤医の獲得

肺がん手術症例数の増加。

83

84



アフターコロナの出口戦略

項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1 外来患者数	74.8人／日	76人／日
2 入院患者数	31.4人／日	34人／日
3 新入院患者数	85.3人／月	90人／月

コロナ問題に加え、消化器内科医師のマンパワー不足により、消化器外科手術症例数が減少していると考えられる。根本的な解決策は消化器内科医師の増員であるが、当面は消化器病センターのなかでの外科の仕事の範囲を拡大して対応するしかない状況である。今年度の目標は、外科手術症例数を令和元年度（コロナ禍前）のレベルまで戻すことである。

82



最先端マンモグラフィー:3Dマンモグラフィー



当院では中東遠圏域の病院で初めて
3Dマンモグラフィーを導入。

平成30年7月2日より当院で乳がん
検診が単独で受診できるようになった。

3Dマンモグラフィーによる精度の高い
検診を受けることが可能。



外科

消化器がん低侵襲治療

腹腔鏡下手術



85

86



外科

消化器がん低侵襲治療

大腸がん手術症例

	全症例	腹腔鏡下手術症例
2014年	126例	70例
2015年	130例	65例
2016年	144例	69例
2017年	144例	65例
2018年	131例	61例
2019年	138例	68例
2020年	117例	55例

87

88



外科

消化器がん低侵襲治療

良性疾患手術症例

(2020.1~2020.12)

全症例	腹腔鏡下手術症例	腹腔鏡下手術完遂率
急性虫垂炎	58例	55例 94.8%
胆石症	79例	76例 96.2%



外科

消化器がん低侵襲治療

ロボット支援手術



相場利貞医師



Da Vinci

令和3年5月より、**相場利貞**医師を中心に、直腸がんに対するロボット支援手術を開始しました。

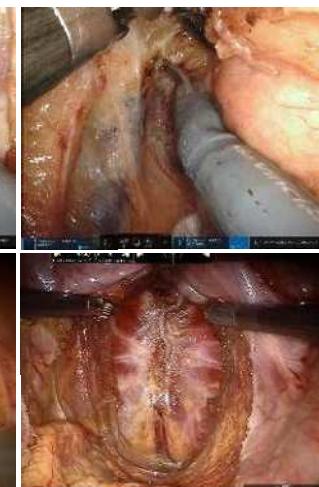
89



外科

消化器がん低侵襲治療

ロボット支援手術



外科

消化器がん高侵襲治療

難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

▪ StageIV大腸がんの外科治療

▪ 膵臓がんの外科治療

91

外科

消化器がん高侵襲治療

難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

2019年 臓器別がん死亡数順位

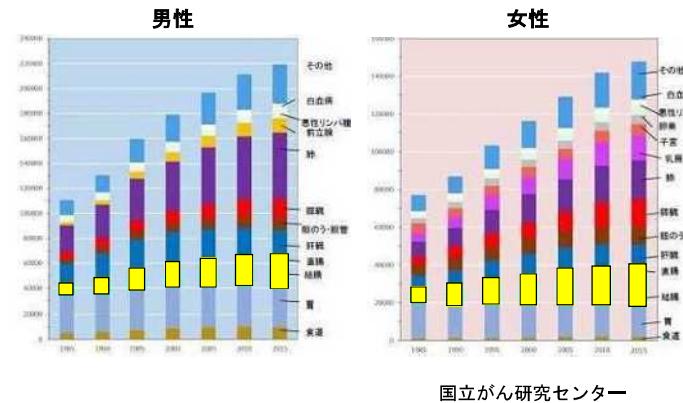
	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	脾臓	肝臓
女性	大腸	肺	脾臓	胃	乳腺
男女計	肺	大腸	胃	脾臓	肝臓

国立がん研究センター

92



臓器別がん死亡数の年次推移
大腸がん



大腸がんStage別5年生存率

Stage	O	I	II	IIIa	IIIb	IV
	5年生存率	94.0%	91.6%	84.8%	77.7%	60.0%
症例数	773例	3254例	4184例	3303例	1576例	2577例

(大腸がん全国登録 2000～2004年：大腸がん研究会)

診断時既に遠隔臓器転移を伴っている症例

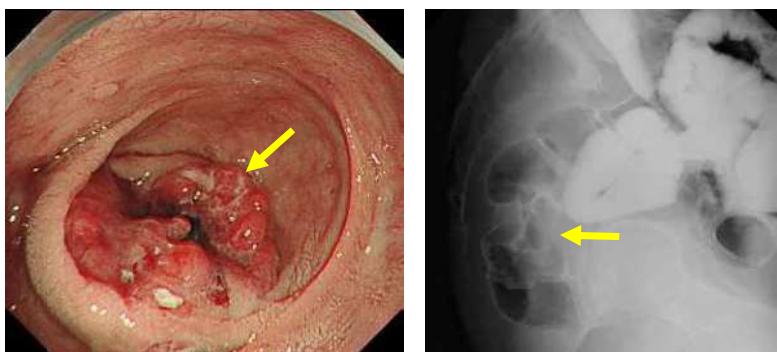
2577例

16.4%

94

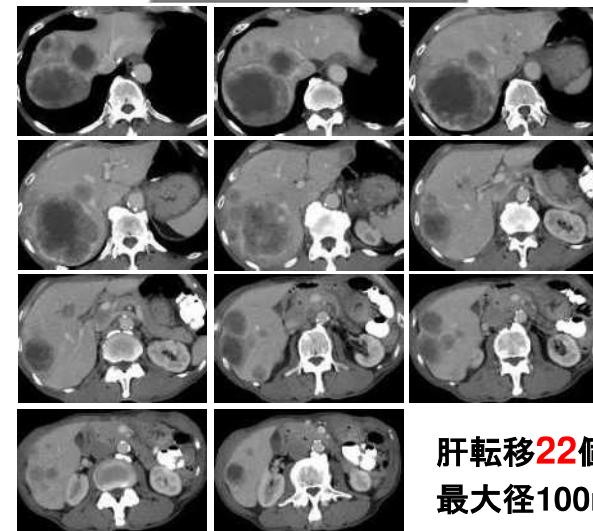
93

肝転移を伴うStageIV大腸がんの外科治療



直腸がん

95

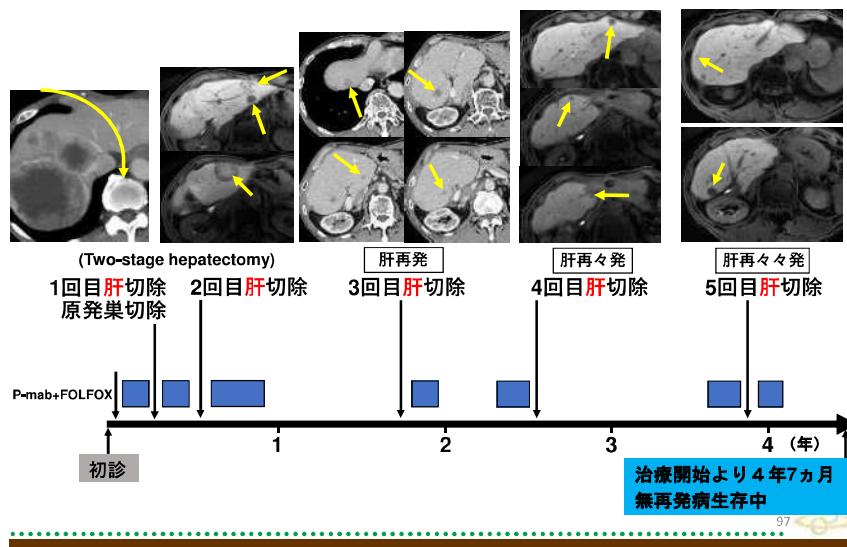
肝転移22個
最大径100mm

96



外科

消化器がん高侵襲治療

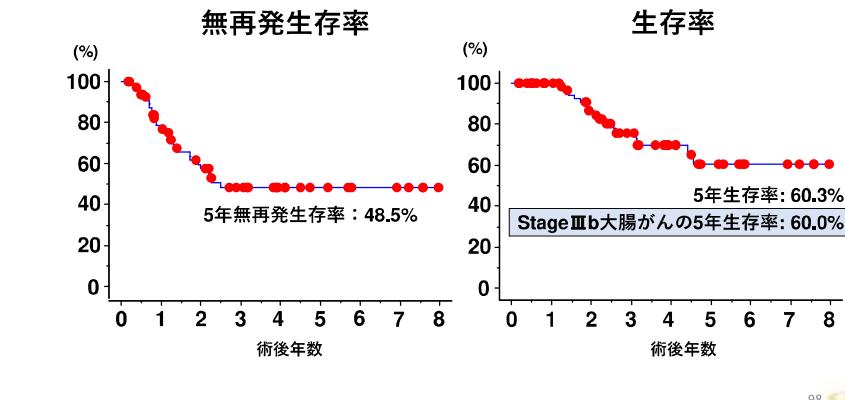


外科

消化器がん高侵襲治療

肝転移を伴うStageⅣ大腸がん (67例)

2013.5.~2020.10.



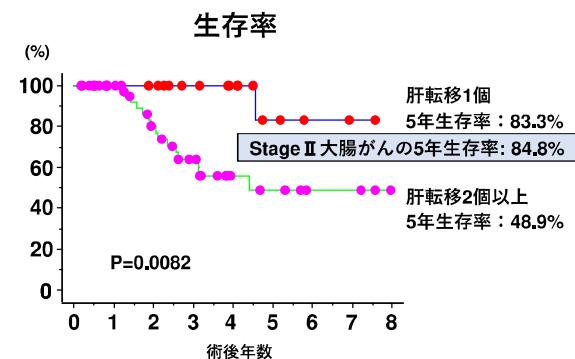
98



外科

消化器がん高侵襲治療

肝転移を伴うStageⅣ大腸がん (67例)
2013.5.~2020.10.



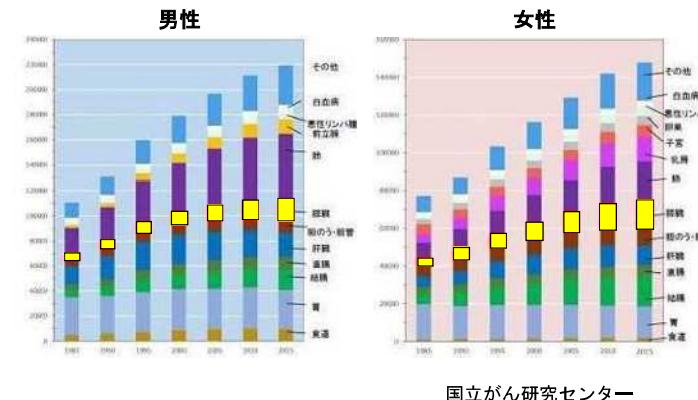
99



外科

消化器がん高侵襲治療

臓器別がん死亡数の年次推移
膵臓がん



100



臓器別がんの5年生存率



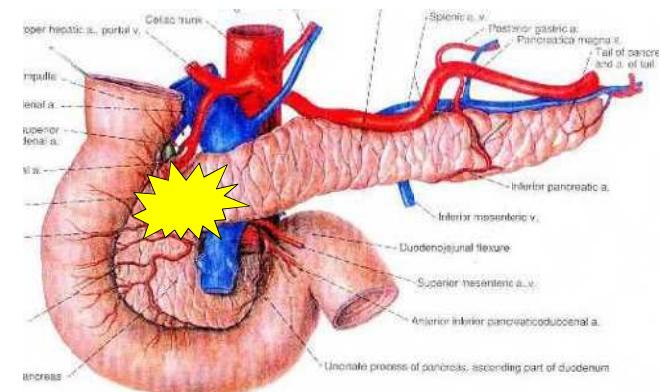
(国立がん研究センター 2019)

101

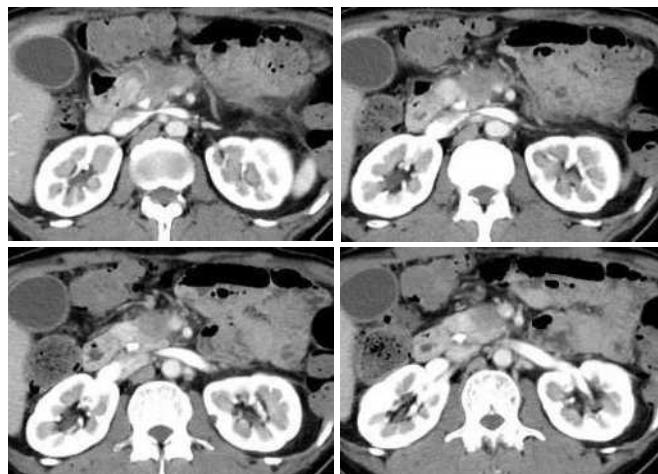
102



膵頭部がんの外科治療



膵頭部がんの外科治療



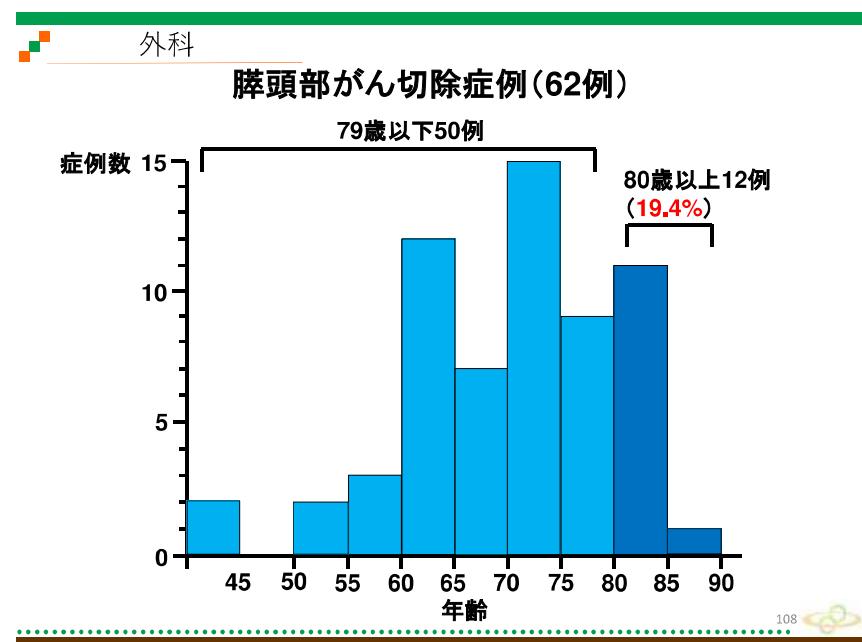
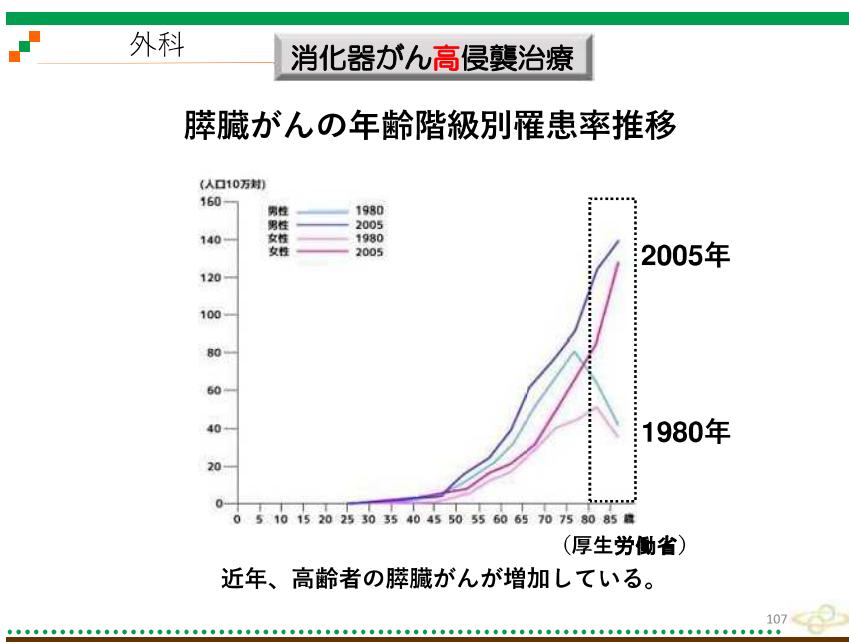
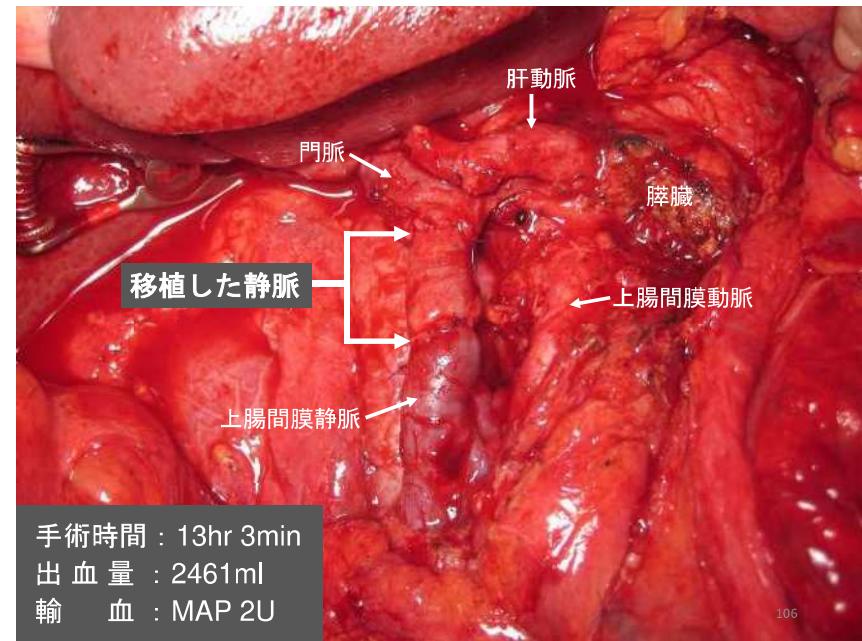
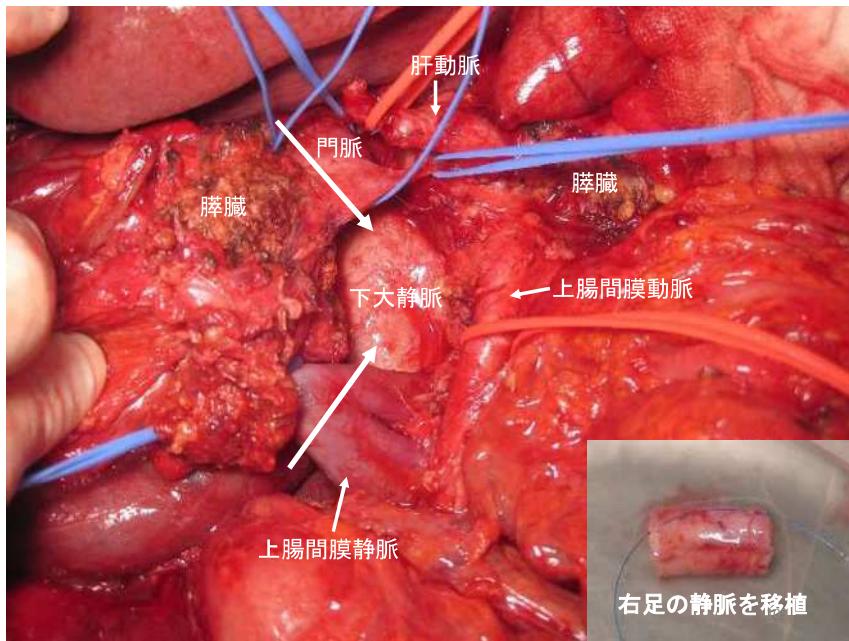
103



膵頭部がんの外科治療



104



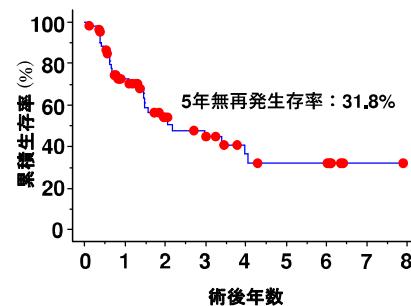


外科

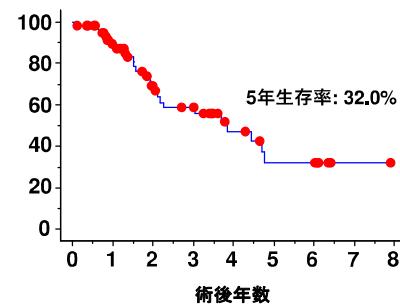
消化器がん高侵襲治療

脾頭部がん切除症例(62例)

無再発生存率



生存率

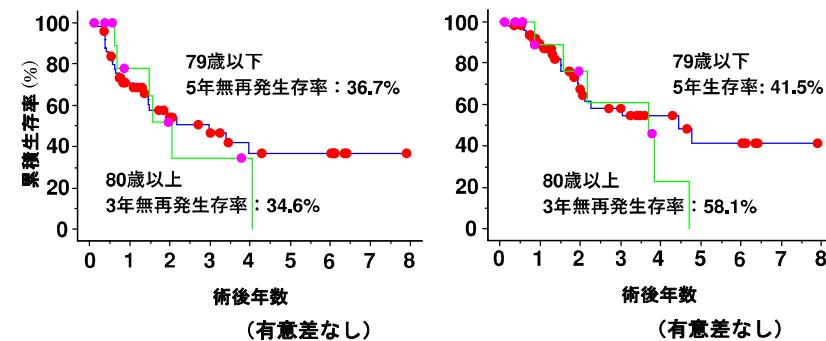


外科

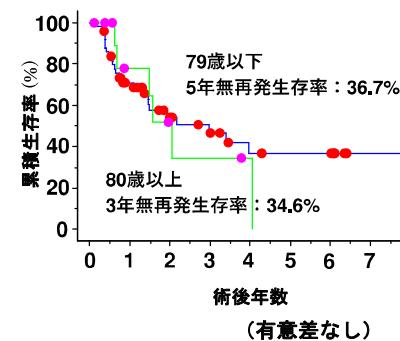
消化器がん高侵襲治療

脾頭部がん切除症例(62例)

生存率



無再発生存率



外科

決 意

地域がん診療連携拠点病院の指定により
消化器がん、乳がん、肺がん診療の
さらなる質向上を図り、地域内完結型
がん医療提供体制の構築に貢献します。

令和3年度 診療科目目標発表

整形外科 Orthopedic Surgery

整形外科



	氏名	役職
1	浦崎 哲哉	院長補佐兼整形外科（統括）診療部長兼リウマチ科診療部長兼脊椎・脊髄センター長兼医療安全管理室長
2	石井 久雄	診療部長兼手外科センター長
3	小早川 晃範	部長
4	山路 哲史	医長
5	岡田 裕也	医長
6	横井 寛之	医長
7	片山 雄二郎	医長
8	西 恵佳	医員兼救急科医員

整形外科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	87.3人／日	85.1人／日
入院患者数	51.4人／日	41.8人／日
手術件数	79.8件／月	84.8件／月

DPC病名別症例数	R1	R2
股関節・大腿近位の骨折	266人／年	246人／年
前腕の骨折	100人／年	88人／年
椎間板変性、ヘルニア	52人／年	60人／年
脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	85人／年	57人／年
胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む)	62人／年	51人／年

整形外科

中期目標

5年後の目指す姿

整形外科専門研修基幹施設の獲得

整形外科手術1,200件／年以上の実施・継続

脊椎外科手術200件／年以上の実施・継続

整形の各専門分野の専門医獲得：脊椎、股関節、膝肩
スポーツ、リウマチ、手外科

整形外科専攻医の育成



整形外科

令和3年度 > 目標

医療の質 入院、手術を中心とした急性期診療機能の強化

項目	目標
1 地域医療機関との症例検討会の実施	5回／年
2 紹介件数の増加	2,000件／年
3 逆紹介件数の増加	2,000件／年

教育研修 専攻医の確保

項目	目標
1 教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

117

118



整形外科

脊椎脊髄センターの取り組み

- ・顕微鏡やエコーを用いた低侵襲手術
- ・ナビゲーションシステムやイメージを用いた精度の高い脊椎固定手術
- *両極にあるこれら2つの手技を手術の適応に応じて駆使しています。
- *後期高齢者の脊椎疾患や脊椎の外傷にも積極的に取り組んでいます。
- *当院は脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設に認定されており、また浦崎が脊椎脊髄外科指導医資格を有しています。したがって、整形外科、脳外科を問わず脊椎脊髄を学ぶ事ができるセンターへの発展を目指します。

119



整形外科

令和3年度 > 目標

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	85.1人／日	90人／日
2	入院患者数	41.8人／日	45人／日
3	新入院患者数	87.8人／月	100人／月

手外科センターの開設とそれに伴う外傷治療体制の強化
脊椎脊髄センターの発展



整形外科

手外科センターの診療

- 上肢の外傷・障害などの疾患に対し、専属のリハビリテーションスタッフとともに専門的治療を行っています。
- 中東遠地域のみならず医療圏を越えて牧之原市や島田市等からも受診して頂けるようになってきました。

令和3年度 > 目標

- ・手外科手術 400件/年（令和2年度 362件/年）
- ・日本手外科学会基幹研修施設の獲得（現在申請中）
- ・四肢外傷治療体制の強化

中期目標 > 5年後の目指す姿

- ・手外科手術 500件/年
- ・認定ハンドセラピストの資格取得
- ・重度四肢外傷治療体制の確立 → 外傷センターへ移行

120



決 意

超高齢社会を乗り切る
診療体制の強化と
地域医療体制、外傷治療体制の
充実に貢献します

121



122

123

124

令和3年度 診療科目目標発表

脳神経外科 Neurosurgery

脳神経外科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	28.7人／日	22.9人／日
入院患者数	40.2人／日	32.2人／日
手術室内手術件数	194件／年	138件／年
血管内手術件数	102件／年	63件／年

DPC病名別症例数	R1	R2
脳梗塞	277人／年	235人／年
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	144人／年	149人／年
頭蓋・頭蓋内損傷	137人／年	118人／年
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	34人／年	45人／年
未破裂脳動脈瘤	39人／年	25人／年

脳神経外科



氏名	役職
1 市橋 鋭一	副院長兼脳神経外科統括診療部長兼リハビリテーション科診療部長兼脳血管内治療センター長兼IVR・画像診断センター長兼ICU・CCUセンター副センター長
2 鳥飼 武司	診療部長
3 松尾 州佐久	診療部長
4 北村 拓海	部長
5 庄田 幹	部長

脳神経外科

中期目標

5年後の目指す姿

- 専攻医を含めた脳神経外科医の確保
- 一次脳卒中センターの認定 **R1認定**
- 遠隔画像診断システムの導入 **I Dlink導入**

脳神経外科

令和3年度 目標

医療の質 あらゆる脳神経外科疾患に対する診療強化

項目	目標
1 すべての脳卒中患者の受け入れと救急科との連携	断らない体制
2 急性期脳卒中のネットワーク確立	遠隔画像診断の確立
3 脳卒中ケアユニットの設置に向けた検討	密度の高い入院医療の実施

教育研修 研修医・専攻医への教育強化

項目	目標
1 他科との連携による勉強会の開催	I C U、C C Uとの共同勉強会の開催
2 病棟カンファ、リハビリカンファ開催	1回／週 脳神経内科医合同
3 専門医取得医師の育成と増員	専門医、指導医取得環境の充実
4 専攻医教育の強化	安定した診断能力と技術の良医の育成
5 研修医教育の充実と専攻医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

129

アフターコロナの出口戦略

項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1 外来患者数	22.9人／日	28人／日
2 入院患者数	32.2人／日	40人／日
3 新入院患者数	54.8人／月	60人／月

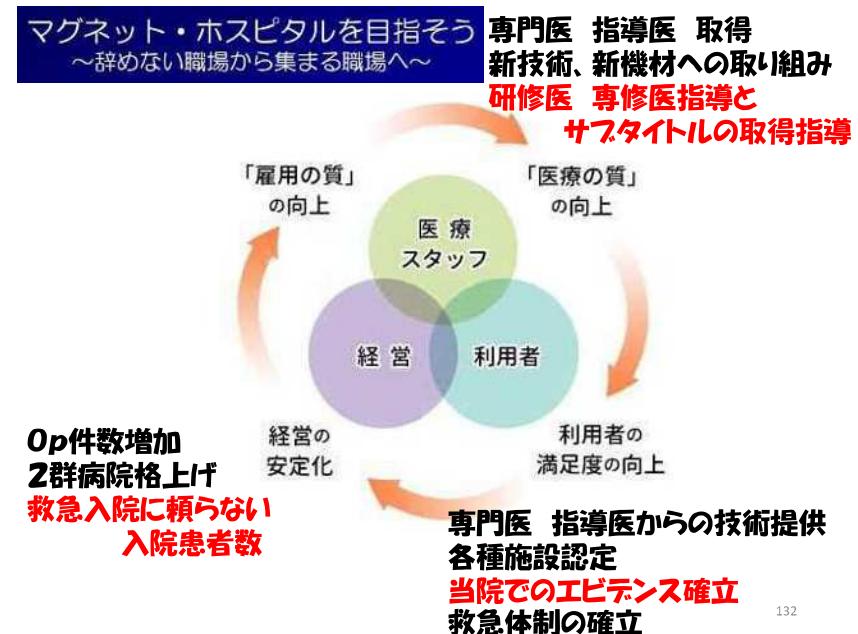
* 不急ではなかった患者の必要な手術の遂行
 * 検査入院の充実
 * D P C II 期間終了までの入院コントロールの徹底
 (医師は退院許可のみ)
 * 自己のスキルアップのための手術手技の検討
 * リモートを使用した医療従事者とのカンファレンス
 入退院支援関係診療報酬算定 2,400点

日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医(@ 施設認定)
日本脳卒中学会専門医(@ 施設認定)
日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本神経内視鏡学会技術認定医
日本脳ドック学会認定脳ドック施設

現在、上記のサブタイトルは当院で取得可能

日本リハビリテーション医学会臨床専門医
日本脊髄外科学会認定医
 後継者育成のための施設認定には、指導医が必要！！

一人の医師タイトルでは上記の維持は困難
 各医師のモチベーションと意識改革、意欲が必須
 後継者育成のために、何が必要か？何をすべきか？



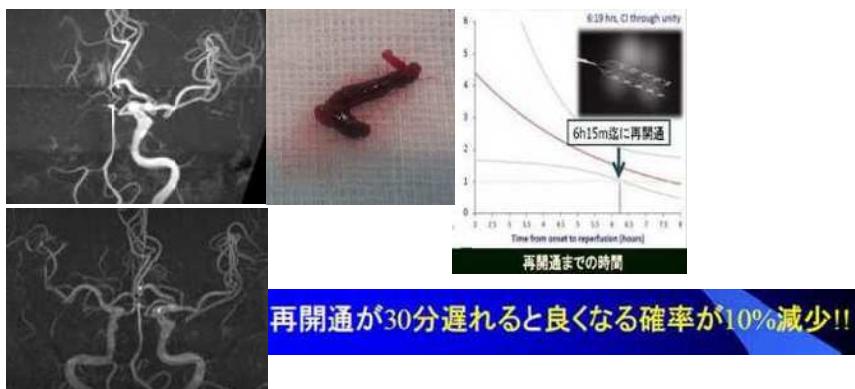
チーム医療



それぞれの部署が 関連部署に
こうしてほしい こうしたらどうか 意見 助言する できる 医療

そのためには、各部署、個人のレベルUPが必須

133



再開通が30分遅れると良くなる確率が10%減少!!

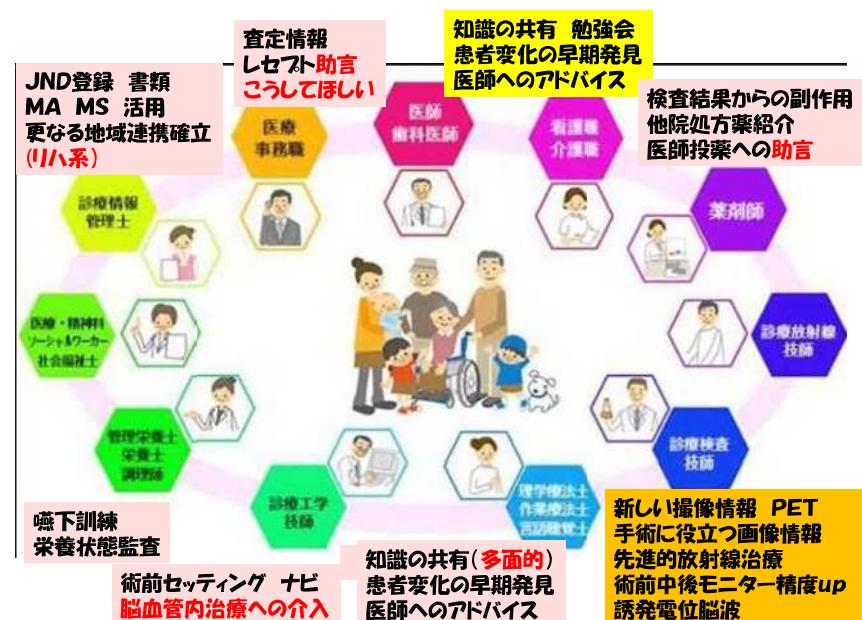
院内伝達の見直し

院内体制 担当医在中 編

院内体制 担当医 onCALL 編

院内体制 院内発症 編

135



医療の質

病院前脳卒中早期発見搬送システムの確立

市民講座での早期発見の重要性

救急隊への主幹動脈閉塞患者の直接当院搬送システム



スマホでCHECK OK

判定結果

例

26.9%

脳卒中の可能性

計算

脳内出血 11.2%

計算

主幹動脈閉塞症 4.2%

計算

その他の脳梗塞 11.3%

計算

クモ膜下出血 0.2%

計算

脳卒中以外 73.1%

計算

血栓回収療法必要な患者の選出

136

JUST Score導入 各救急隊との勉強会

Japan Urgent Stroke Triage (JUST) Score
計算機 (c) gikohha 2018
based on Uchida et al. Stroke.
2018;49:1820-1827

<input checked="" type="checkbox"/> 年齢≥75	<input checked="" type="checkbox"/> 喫煙
<input type="checkbox"/> 脳梗塞の既往	<input type="checkbox"/> 急激な発症
<input type="checkbox"/> 症状が改善した	<input type="checkbox"/> 症状が悪化傾向
<input type="checkbox"/> 頭痛	<input checked="" type="checkbox"/> 言葉が出ない
<input type="checkbox"/> けいれん	<input checked="" type="checkbox"/> 横音障害
<input type="checkbox"/> めまい	<input type="checkbox"/> 嘔吐・はきけ
<input type="checkbox"/> 収縮期血圧≥165	<input type="checkbox"/> 強張り血圧≥95
<input type="checkbox"/> 不整脈	<input type="checkbox"/> 無脈障害
<input type="checkbox"/> 共同偏視	<input checked="" type="checkbox"/> 半側空間無視
<input checked="" type="checkbox"/> 顔面神経麻痺	<input checked="" type="checkbox"/> 上肢の麻痺
<input checked="" type="checkbox"/> 下肢の麻痺	

計算

脳梗塞？ 88%
大血管閉塞？ 18%
脳出血？ 42%
くも膜下出血？ 0%
大血管閉塞・出血は脳外科のある病院へ

LVO
不整脈
急激な発症

ICH
共同偏視
症状悪化傾向

皆が使える
スマホのアリです。

計算

脳梗塞？ 88%
大血管閉塞？ 79%
脳出血？ 8%
くも膜下出血？ 0%
大血管閉塞・出血は脳外科のある病院へ

院内伝達の見直し

院内体制 担当医在中 編

院内体制 担当医 onCALL 編

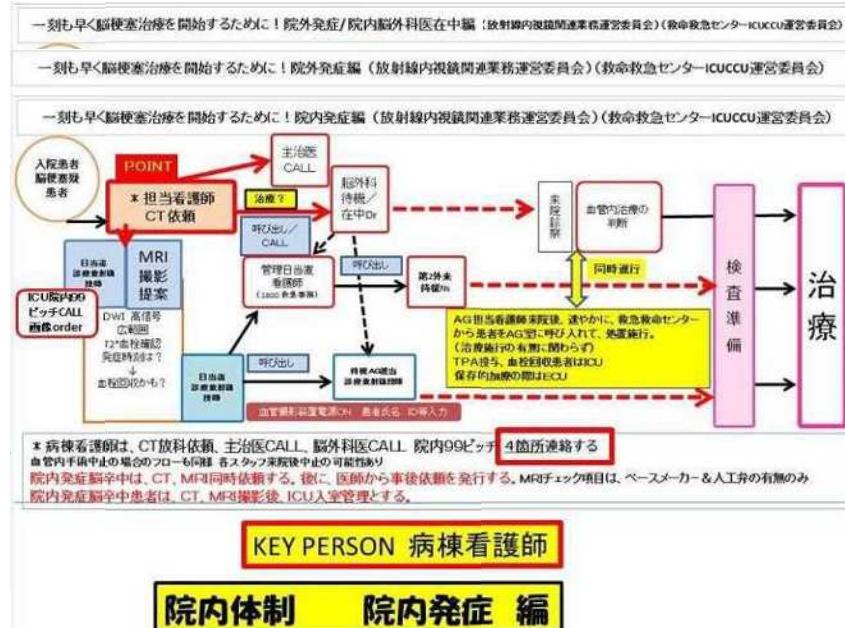
院内体制 院内発症 編

すべての症例に対して、検証、導線の見直し、を、行ってる。

脳梗塞血栓回収療法 タイムライン

日付 /	患者ID	患者名
一報時間	放射線技師 (:)	看護師 (:)
★か☆のどちらかを記載する！		
★当院ファーストタッチ患者		
発症	来院	他の院紹介患者
CT開始	CT開始	時間
MRI開始	MRI開始	
t-PA開始	t-PA開始	
穿刺	穿刺	
内閣頭	内閣頭	
(当院t-PA開始)	(当院t-PA開始)	
穿刺	穿刺	
再開通	再開通	

Point !!



医療の質 包括的脳卒中センターCSC の確立

脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画の推進



脳卒中急性期診療施設（脳卒中センター）の類型

- ①包括的脳卒中センター(comprehensive stroke center!CSC)
脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の予後を改善させることができ24H/7D可能な施設
- ②血栓回収脳卒中センター(thrombectomy-capable stroke center:TSC)
脳梗塞に対する機械的血栓回収療法が24H/7D可能な施設
- ③一次脳卒中センター(primary stroke center:PSC)
脳梗塞に対する『t-PA静注療法が24H/7D可能な施設

5事業（救急医療、災害医療、へき地医療の支援、周産期医療、小児医療）
140
5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）



脳血管疾患に対するスペシャリストチーム



当院脳神経外科は、5人体制によるチーム医療のもと、24時間365日脳卒中などの診療に対応しています。

また、難易度の高い手術症例についても、後期研修医への指導を行いながら、高い技術により安全かつ質の高い治療を行っています。

個人の技術とチームの連携を同時に強化し、地域医療へのさらなる貢献を目指します。

141

決 意

個人そしてチームとして
診療技術をさらに高め
脳卒中治療をはじめとする
地域医療に貢献します

142

143

144

令和3年度 診療科目目標発表

小児科 Pediatrics

小児科



	氏名	役職
1	岩島 覚	統括診療部長
2	矢田 宗一郎	診療部長
3	關 圭吾	部長
4	塩澤 亮輔	部長 兼臨床研修センター副センター長
5	早野 智	部長
6	勝木 純一郎	医員
7	猿渡 ちさと	医員

小児科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	77.0人／日	60.9人／日
入院患者数	14.0人／日	13.0人／日
アレルギー食物負荷試験実施件数	13.0件／月	11.0件／月

DPC病名別症例数	R1	R2
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	255人／年	226人／年
食物アレルギー	209人／年	172人／年
体液量減少症	12人／年	33人／年
川崎病	34人／年	32人／年
腎臓又は尿路の感染症	31人／年	32人／年

小児科

中期目標

5年後の目指す姿

静岡県内を代表する小児科研修施設

小児科入院設備体制の充実

小児科専門医の教育、育成

NICUの増床、地域周産母子センターの設立



小児科

令和3年度 > 目標

医療の質

- ・あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実
- ・専門施設との連携強化

	項目	目標
1	小児入院医療体制の強化	体制強化による小児入院医療管理料3の取得
2	行政や施設との連携強化	集団健診等による地域貢献就学支援委員会への協力 令和3年9月施行医療ケア児支援法案改訂に伴い地域 医療ケア児への積極的支援を行政とともに確立
3	小児発達支援	臨床心理師による週1~2回の外来枠の設置

教育研修

- ・研修教育の強化と研修医の確保
- ・当院出身小児科専門医の育成

	項目	目標
1	初期研修医の教育強化	月10例程度の受け持ち
2	後期研修医の教育強化	学会での症例報告、論文作成
3	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

149



小児科

令和3年度 > 目標

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	60.9人／日	100人／日
2	入院患者数	13.0人／日	20人／日
3	新入院患者数	74.5人／月	100人／月

新型コロナ感染拡大防止に伴い全国の小児科15%前後の入院外来患者の減少あるも現在RSウィルス感染症等季節性ウィルス感染症の増加に伴い患者数増加のため地域小児科医療の継続安定を追求していく

150



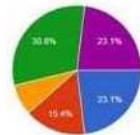
小児科

3 教育研修

地域5病院研修医ネットカンファ

令和3年1月28日5病院研修医育成研修会終了後企画アンケート調査集計報告

- 1.あなたの年齢をお聞かせください。
13歳の回答



2.今朝のカンファの感想をお聞かせ下さい。

11名の回答



3.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

10件の回答

はい	いいえ
いいえ	はい
その他	

4.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

5.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

6.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

7.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

8.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

9.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

10.あなたが来院する際は、ご医療機関の接遇に満足しています。

151

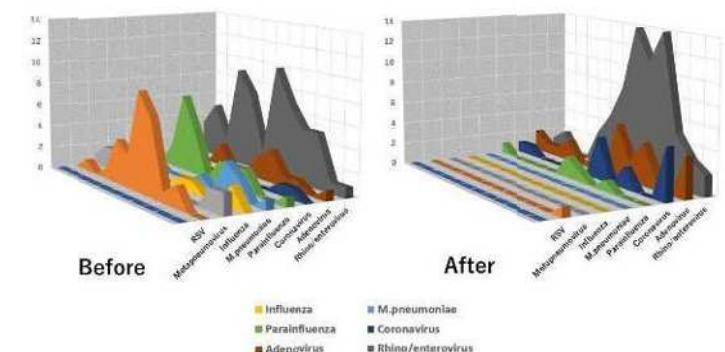


小児科

3 教育研修

研修医研究投稿中

Fig. 2.



152

当科と産科の共同研究 ESC Congress 2021 撰抲

ESC European Society of Cardiology

ESC Congress 2021 - The Digital Experience

Friday, 27 August - Monday, 30 August 2021

Abstract Preview

ESC Congress 2021 - The Digital Experience

Document Identifier (DOI): 10.1016/j.ejcd.2021.08.046

Authors: S. Yamada¹, Y. Yamamoto², N. Takakoshi²

1Chubu General Medical Center, 4360555 - Inokagawa, Japan

E-mail: iwanimaki07@gmail.com

Title: CVD risk factor in fetal and infants born to mothers with gestational diabetes

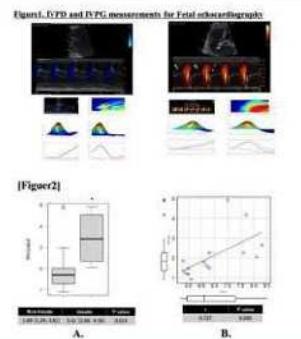
Type: L3.1 - Clinical and Diagnostic Research

Category: British

Options: No options

Funding Acknowledgements: -- Type of funding source: None -- I confirm that this information can be anonymized and then used for validation purposes only.

S. Yamada¹, Y. Yamamoto², N. Takakoshi² - (1) Chubu General Hospital, Pediatric Cardiology, Kasugai, Japan (2) Juntendo University Faculty of Medicine, Obstetrics & Gynecology, Tokyo, Japan (3) Juntendo University Graduate School of Medicine, Preobstetrics, Tokyo, Japan



153

決意

充実した小児診療体制を構築し、世界へ情報を発信できる小児科医を育成する

154

155

156

令和3年度 診療科目目標発表



Obstetrics and Gynecology

産婦人科

主な診療実績		R1	R2
外来患者数		76.6人／日	63.9人／日
入院患者数		25.3人／日	19.7人／日
症例数（1年あたり）		R1	R2
産科	総分娩数	524	390
	経腔分娩	374	245
	予定帝王切開分娩	85	65
	緊急帝王切開分娩	65	80
婦人科	手術	182	112
	腹腔鏡手術	82	54
婦人科	新規患者数	54	75
	悪性手術	37	56
	子宮体癌腹腔鏡手術	2	6

産婦人科



氏名	役職	資格
村上 裕介	(統括)診療部長 兼手術センター副センター長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会・周産期(母体・胎児)暫定指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 母体保護法指定医 臨床研修指導医 医学博士
田中 翠	診療部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 医学博士
福地 千恵	部長	日本産科婦人科学会専門医
林立弘	医長	
江藤 千佳	医員	
北本 愛依	医員	

157

産婦人科

産婦人科

中期目標

5年後の目指す姿

静岡県において有数の婦人科がん治療、
腹腔鏡手術、周産期医療の施設となる

日本婦人科腫瘍学会指定修練施設A

日本婦人科内視鏡学会修練施設

地域周産期母子医療センター

158

160

**医療の質** より専門性の高い医療

	項目	目標
1	産科医療	正常妊娠からハイリスク妊娠までの取り扱い 母体緊急搬送の100%受け入れ 超緊急帝王切開時の体制の維持
2	がん診療	高度な技術を要する悪性腫瘍手術から 終末期医療まで取り組む
3	腹腔鏡手術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術件数の増加

161

**アフターコロナの出口戦略**

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	63.9人／日	76人／日
2	入院患者数	19.7人／日	25人／日
3	新入院患者数	74.9人／月	98人／月
4	分娩件数	32.5件／月	40件／月

分娩数増加のため、紹介状のない妊娠初診患者を受け入れる。

産科はコロナ感染妊婦の分娩、帝王切開にも対応できるよう引き続き体制を維持していく。

手術件数は回復しているので、安全な手術を心がけていく。

162

**2021年4月20日コロナウイルス感染妊婦帝王切開実施**

163

**将来的な展望**

- ・周産期医療の充実
- ・県内における有数の婦人科がん診療施設
- ・ロボット支援下手術導入

164



産婦人科の取り組み



毎日の病棟回診と症例カンファレンスにより、外来紹介患者、全入院患者の情報共有、治療方針の明確化、研修医教育を行なっている。

産婦人科専門医に続く、サブスペシャリティー
(周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、婦人科
内視鏡技術認定医) 取得可能な修練施設となる。

165

決 意

産科医療、手術、がん診療をバランス
良く行ない、市民から信頼され、
産婦人科専攻医にも魅力ある診療科
を目指します。

166

167

168

令和3年度 診療科目目標発表

泌尿器科 Urology

169

170

泌尿器科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	50.3人／日	46.1人／日
入院患者数	20.6人／日	16.2人／日
手術件数	505件／年	520件／年
ロボット支援手術件数	35件／年	41件／年

DPC病名別症例数	R1	R2
前立腺の悪性腫瘍	202人／年	193人／年
上部尿路疾患	205人／年	156人／年
膀胱腫瘍	156人／年	109人／年
腎孟・尿管の悪性腫瘍	58人／年	45人／年
腎臓または尿路の感染症	38人／年	39人／年

171

泌尿器科

氏名	役職	卒年度	備考
1 松本 力哉	診療部長	H14年	泌尿器科専門医・指導医 ロボット支援手術プロクター認定医
2 秋 亮太	医長	H26年	泌尿器科専門医 ロボット支援手術認定医
3 鈴木 英斗	医員	H29年	ロボット支援手術認定医
4 柿沼 俊吾	医員	H30年	ロボット支援手術認定医



非常勤医師
浜松医大の豪華な顔ぶれ

教授：三宅 秀明
(火曜日 外来・手術)
准教授：大塚 篤史
(第1・5木曜日 手術)
助教：伊藤 寿樹
(第2・4木曜日 手術)

泌尿器科

中期目標 ➡ 5年後の目指す姿

中東遠地域のロボット支援手術基幹センター

腎癌・膀胱癌・前立腺癌に対するロボット支援手術の実施施設

学会認定ロボット支援手術指導医（プロクター）の養成施設

外科の先生ともタッグを組んで！！

172



医療の質 手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実

項目	目標
1 ロボット支援手術の安全性向上	事故0件
2 地域連携の強化	紹介件数 920件／年 逆紹介件数 550件／年

教育研修 研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

項目	目標
1 泌尿器腹腔鏡技術認定医の育成	年に15件以上の腹腔鏡手術を経験、認定医申請
2 ロボット支援手術プロクター取得	年度内に新規プロクター申請
3 教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

173

174

アフターコロナの出口戦略

項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1 外来患者数	46.1人／日	50人／日
2 入院患者数	16.2人／日	18人／日
3 新入院患者数	59.3人／月	60人／月

専門医不足に伴い昨年度は体外衝撃波腎尿管結石碎石術(ESWL) 施行が不可だったが、本年度再開



100件以上の入院患者数の増加と手術件数の増加が見込まれる

174

ダヴィンチ手術のさらなる拡大



平成29年2月の導入から4年が経過し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術の件数は140件を超みました。

さらなる手術手技の獲得としてロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術に取り組むべく準備を進めています。

令和3年度はこれら手術をより安全かつ手術件数も昨年以上を目指します。

ロボット支援手術の泌尿器科疾患の保険適応も拡大中

175

176

決 意

ロボット支援手術を向上させることによって院内ならびに中東遠地域医療の活性化につなげていく。

令和3年度 診療科目標発表

皮膚科・皮膚腫瘍科

Dermatology ▪ Skin Oncology

皮膚科・皮膚腫瘍科



	氏名	役職
1	大塚 正樹	(統括) 診療部長
2	戸倉 新樹	診療部長, 参与兼アレルギー疾患研究センター長
3	小倉 康晶	医長
4	森本 広樹	医員

177

皮膚科・皮膚腫瘍科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	64.7人／日	56.8人／日
入院患者数	8.3人／日	6.2人／日
手術室手術件数	16.9件／月	22.8件／月

DPC病名別症例数	R1	R2
膿皮症	71人／年	43人／年
皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)	2人／年	29人／年
帯状疱疹	48人／年	25人／年
皮膚の良性新生物	5人／年	18人／年
薬物中毒(その他の中毒)	23人／年	15人／年

179

皮膚科・皮膚腫瘍科

中期目標 ➡ 5年後の目指す姿

皮膚がん・炎症性皮膚疾患の拠点病院

県内の皮膚がん診療の「最後の砦」として機能する

県中部・西部の炎症性皮膚疾患診療の拠点となる

皮膚科専攻医の教育施設として基幹施設を目指す

180

医療の質 皮膚科診療の充実

項目	目標
1 皮膚科診療の習熟	幅広い皮膚疾患の治療に精通する。
2 皮膚科領域手術の拡大	・センチネルリンパ節生検開始に伴う手術症例数の増加。 ・境界領域皮膚がん（眼瞼、口唇、陰股部）に対する手術症例数の増加。
3 皮膚がん薬物療法の強化	近隣病院へ周知することで薬物療法症例数の増加。
4 乾癬、アトピー性皮膚炎 薬物療法の強化	乾癬、アトピー性皮膚炎専門外来を開設している。特に治療に難渋する症例を積極的に受け入れ、基幹病院に特化した治療を提供する。

教育研修 教育体制の強化

項目	目標
1 教育体制の強化	皮膚科領域に関する教育指導を充実させ、皮膚科志望医師を毎年1名確保
2 脾瘻勉強会（職員向け）	1年に1回開催

181

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	56.8人／日	60人／日
2	入院患者数	6.2人／日	10人／日
3	新入院患者数	20.5人／月	25人／月

・令和2年4月より皮膚がん診療に力を入れている。手術件数は増加に転じ、薬物療法も徐々に増えつつある。がんの罹患数については、コロナの影響を受けないことから、皮膚がんに関しては、医療圏を静岡市、浜松市まで拡大する努力を行い、患者リクルートを促進させる。

・アトピー性皮膚炎や乾癬をはじめとする炎症性皮膚疾患の先端医療を展開し、コロナ禍で滞っている患者リクルートを促進させる。さらにアレルギー疾患研究センターの一分野としての役割を全うする。

182

皮膚がん診療・皮膚外科の専門性の発揮**令和3年度目標**

手術件数	300件/年 (R2: 274件)	R1: 203件
全身麻酔手術	50件/年 (R2: 40件)	R1: 7件
皮膚悪性腫瘍切除	60件/年 (R2: 41件)	R1: 21件
センチネルリンパ節生検	5件/年 (R2: 3件)	R1: 0件
皮膚がん薬物療法	10例/年 (R2: 5件)	R1: 1件

183

決 意

炎症性皮膚疾患・皮膚がんの診療の質を高め、治療成績を向上させ、患者ニーズに応えていきます。

184

令和3年度 診療科目目標発表

眼科 Ophthalmology

眼科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	82.4人／日	74.0人／日
入院患者数	6.4人／日	7.7人／日

主な手術症例数	R1	R2
水晶体再建術	783人／年	886人／年
眼内レンズ強膜内固定術	0人／年	8人／年
硝子体手術	0人／年	88人／年
緑内障手術	10人／年	55人／年

眼科



	氏名	役職	卒業年度、資格
1	宇佐美 貴寛	医長（診療科長）	平成25年卒、眼科専門医
2	永田 祐衣	医長	平成25年卒、眼科専門医
3	武内 広樹	医長	平成26年卒、眼科専門医
4	遠藤 智己	医長	平成27年卒、眼科専門医
5	山田 亮佑	医員	平成29年卒
6	八角 光輝	医員	平成29年卒

186

眼科

中期目標 → 5年後の目指す姿

継続と進化

- ・眼科緊急疾患の受け入れ強化
- ・疾患知識、手術手技の継続的なアップデート
- ・手術待機時間の短縮・維持

188



眼科

令和3年度 > 目標

医療の質 診療の効率化と質の向上

	項目	目標
1	網膜硝子体手術の増加	緊急性の高い疾患に早期に加療いたします。難疾患も安全に加療できるよう、最新の技術を取り入れ続けます。
2	低侵襲緑内障手術の増加	低侵襲緑内障手術を導入し、良好な眼圧下降が得られています。早期に低侵襲な手術介入することにより、長期的に視機能維持につなげます。

教育研修 数年後に必要となることへの投資

	項目	目標
1	研修医の確保と教育の充実	毎週の新患カンファレンス
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

189

190



眼科

人生100年時代の視機能の維持を目指す



超高齢化社会がすすみ、「見えるようになる」だけの医療から、長期間にわたり「よりよく見える」という、生活の質を上げる面での医療の在り方も大事になってきています。

当院では、白内障、緑内障、網膜剥離などの内眼疾患から、眼瞼下垂や斜視などの外眼部疾患まで手術を行っております。また弱視治療など、小児眼科領域にも力をいれており、幅広い疾患に対して治療を行っております。

191

眼科

令和3年度 > 目標

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	74.0人／日	80人／日
2	入院患者数	7.7人／日	8人／日
3	新入院患者数	69.3人／月	80人／月

外来患者数はコロナ流行以前より若干減少しておりますが、手術症例を中心とした入院患者数は確実に増加しコロナ流行以前よりも増加しております。良質な眼科医療を変わらず提供し続けます。

眼科

決 意

中東遠地域の基幹病院として、地域の先生方と連携を取り、医療の質向上に努めていきたいと思います

192

令和3年度 診療科目目標発表

耳鼻いんこう科 Otorhinolaryngology

耳鼻いんこう科

主な診療実績	R1	R2
平均外来患者数	52.8人／日	49.1人／日
平均入院患者数	12.8人／日	12.4人／日
平均手術件数	22.2件／月	21.3件／月

DPC病名別症例数	R1	R2
顔面神経障害	59人／年	63人／年
扁桃、アデノイドの慢性疾患	59人／年	53人／年
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	81人／年	52人／年
前庭機能障害	38人／年	47人／年
聴覚の障害(その他)	42人／年	46人／年

耳鼻いんこう科



氏名	役職
臼井 広明	副医務局長兼診療部長
近藤 玄樹	部長
疋田 由美子	部長
細川 誠二	浜松医大耳鼻咽喉科准教授（非常勤）

耳鼻いんこう科

術式	年 度	手術件数				比較
		平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	
耳						
鼓室形成術	3	1	0	2		
鼓膜形成術	1	2	3	1		
鼓膜チューブ挿入術	10	9	11	4		
顔面神経疊合術	1	0	0	0		
外耳道異物摘出術	1	1	1	3		
先天性耳健管摘出術	6	12	5	8		
鼻						
内視鏡下鼻副鼻腔手術 (+鼻中隔矯正術)	35	41	45	25		
EMMM	0	0	0	8		
鼻中隔矯正術 (+下鼻甲介切除術)	8	4	7	9		
鼻腔良性腫瘍切除術	2	6	3	3		
O-L法(上頸洞根治手術)	3	2	1	0		
鼻骨骨折整復術	15	11	13	15		
鼻甲介レーザー焼灼	10	4	5	3		
口腔咽喉頭						
扁桃摘出手術	36	25	35	40		
扁桃摘出手術 +アデノイド切除術	14	18	28	12		
アデノイド切除術	2	6	6	4		
UPPP	1	2	0	0		
術後出血止血術	3	4	1	2		
舌口腔良性腫瘍	6	5	12	8		
舌口腔悪性腫瘍	0	0	0	1		
咽頭良性腫瘍	0	0	0	2		
咽頭悪性腫瘍	0	0	0	1		
合計		247	260	280	252	

短期目標

今年度の目標

患者数の回復・増加

- 1) 紹介・逆紹介患者数の回復・増加
- 2) 入院患者数の増加
- 3) 手術件数の回復・増加

197

198

令和3年度

目標

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	49.1人／日	50人／日
2	入院患者数	12.4人／日	14人／日
3	新入院患者数	44.7人／月	50人／月

①ご紹介いただく開業医との連携強化

②現在当院で行っている診療内容の広報活動

③新しい術式や治療法への挑戦

199

200

中期目標

5年後の目指す姿

頭頸部がん診療の充実

- 1) 頭頸部がん患者の獲得
- 2) 化学療法の増加
- 3) 放射線治療の増加

令和3年度

目標

医療の質

	項目	目標
1	ナビゲーションを利用した内視鏡下副鼻腔手術の増加	50件／年以上の内視鏡下副鼻腔手術
2	新たに導入した手術（術式）、治療法の増加	①Endoscopic modified medial maxillectomy (EMMM) 件数の増加 ②リティンパを用いた鼓膜穿孔閉鎖術件数の増加 ③突発性難聴に対するステロイド鼓室内注入件数の増加

教育研修

	項目	目標
1	大学と連携した教育指導の強化	専門医の育成
2	教育体制の強化と研修医の確保	専攻医の確保

突発性難聴に対するステロイド鼓室内注入

【突発性難聴とは】

原因不明の難聴疾患。めまいを伴うこともある。聴力が完全に回復しない症例も多い。

【治療方法】

全身ステロイド点滴治療が一般的に行われている。高気圧酸素療法も併用することがある。

【適応】

- ①ステロイドの点滴や内服治療を行っても効果が乏しい症例の2次治療として行う。
- ②全身状態的にステロイドを投与できない患者(重度の糖尿病や高度の腎機能障害等)の1次治療として行う。

【治療方法】

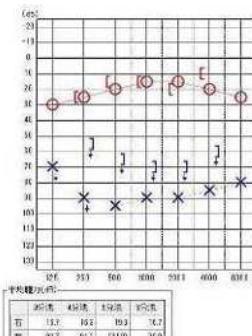
顕微鏡下に鼓膜に小さな針で穴を開けて、中耳(鼓室)にステロイドを注入する治療法。高濃度の薬剤を内耳に移行させることができる。治療は1週間に1回あるいは連日で、合計4回行う。外来通院で行うこともできる。

【合併症】

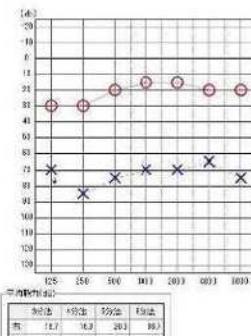
*副作用や全身への影響は、ステロイド全身投与より少ないとされている。

- ①中耳に薬液を入れた際に、一時的にめまいを生じることがある。
- ②鼓膜穿孔(鼓膜の穴)が残る可能性がある(5~30%)。手術による閉鎖を要することがある。

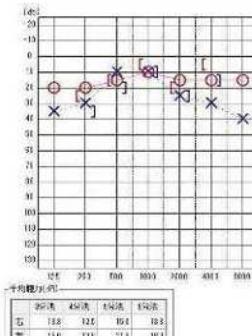
57歳 男性



治療前



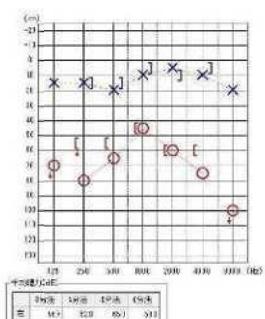
ステロイド点滴後



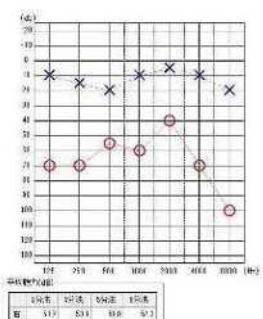
ステロイド鼓室内注入後

202

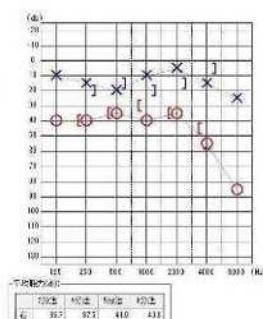
37歳 男性



治療前



ステロイド点滴後



ステロイド鼓室内注入後

203

ステロイド鼓室内注入成績

2020.9月～2021.6月の期間で12人の患者様に施行した。

聴力著明改善 2人

聴力軽度改善 5人

聴力不变 5人

204



決 意

ご紹介いただく開業医を大切
にし、信頼される診療を今後
も患者様に提供いたします。

205

206

207

208

令和3年度 診療科目目標発表

腫瘍放射線科 Radiation Oncology



医療の質 照射方法の適切な選択と精度の向上

項目	実績・目標
1 患者ごとに最適な照射方法の選択	○ IMRT多用などでおおよそ達成 → 引き続き高い達成率を目指す。また前立腺癌治療の安全性を高めるためスペーサーの導入
2 放射線治療装置の精度の維持管理	△ 患者固定精度にやや難があった → 固定具の改良により○を目指す

教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

項目	実績・目標
1 教育体制の強化	△ 浜松医大の専門研修プログラムに参加中 → 継続
2 研修医の確保	× 未達成 → 放射線治療のPR法を検討

腫瘍放射線科

がん診療を支える放射線治療



	氏名	役職
1	一戸 建志	診療部長

主な診療実績	H1.1.1~6.30	R1.1.1~6.30	R2.1.1~6.30
登録新患数	114人	84人	84人
延べ照射人数	142人	123人	107人

210

腫瘍放射線科

中期目標 5~2年後の目指す姿

ヒトにやさしい照射環境を目指す

フレックスタイム制の導入 → X

早朝照射、夜間照射の取り組み → X

自動追尾能を持った治療機の導入 → △ (サイバーナイフ?)

212

三つの短期目標

1. 女性技師への放射線治療の教育機会を増やす
2. 機器更新に備え、放射線治療収入を増やす
3. 前立腺癌治療の安全性を高めるためスペーサーの導入

213

214



高圧酸素療法とは

大気圧より高い気圧環境の中で酸素を吸入することにより、病態の改善を図る治療。



令和2年

J 0 2 7 高気圧酸素治療（1日につき）

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 減圧症又は空気塞栓に対するもの | 5000点 |
| 2 その他のもの | <u>3000点</u> |

(3) 「2」は次の疾患に対して行う場合に、一連につき 30 回を限度として算定する。

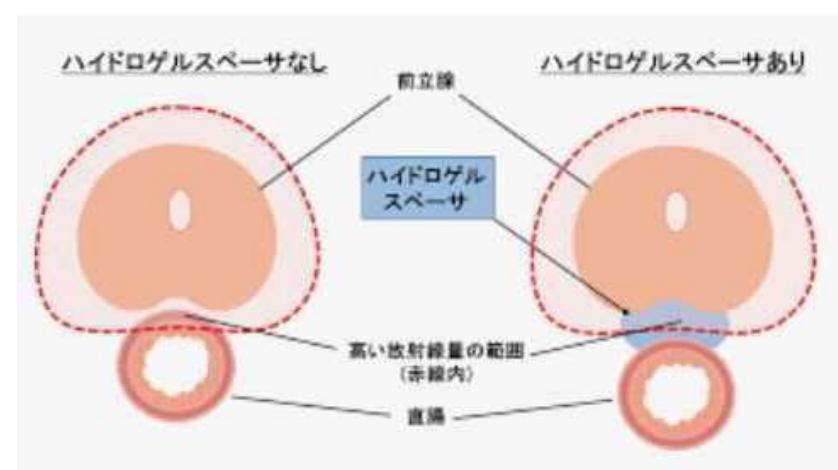
- ア 網膜動脈閉塞症
- イ 突発性難聴
- ウ 放射線又は抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍
- エ 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害
- オ 皮膚移植
- カ 脊髄神経疾患
- キ 骨髄炎又は放射線障害

216

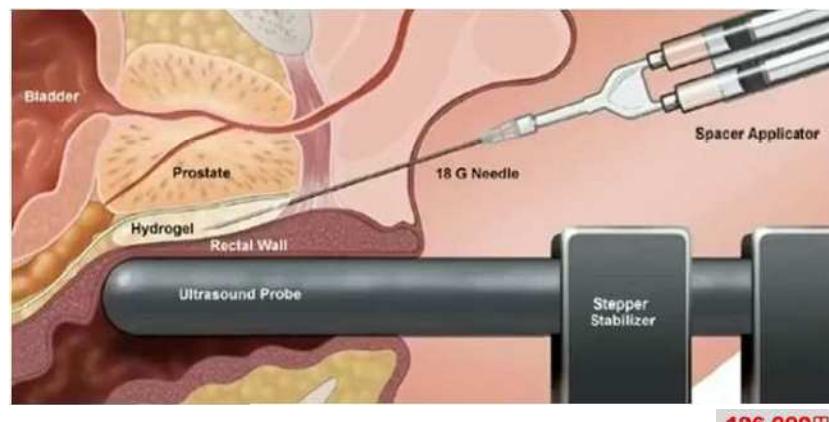
核医学診断／治療に関する医科診療報酬点数表
第2章 特掲診療料 第12部 放射線治療
M001 体外照射

M001 体外照射	
1 エックス線表在治療	
イ 1回目	110点
ロ 2回目	33点
2 高エネルギー放射線治療	
イ 1回目	
(1) 1門照射又は対向2門照射を行った場合	840点
(2) 非対向2門照射又は3門照射を行った場合	1,320点
(3) 4門以上の照射、運動照射又は原体照射を行った場合	1,800点

217



218



219



220

令和3年度 診療科目目標発表

麻醉科 Anesthesiology

麻醉科

主な臨床実績	R1	R2
外来患者数	4,058人	4,420人
手術件数	4,925件	5,005件
麻酔科管理件数	2,158件	2,053件

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	16.9人／日	18.2人／日
手術件数	410.2件／月	416.8件／月
全身麻酔手術件数	167.0件／月	158.5件／月

麻酔科



★日本麻酔科
学会指導医

	氏名	役職
★ 1	山本 洋子	副院長兼（統括）診療部長兼手術センター長兼臨床研究管理室長
★ 2	内山 智浩	副医務局長兼診療部長
★ 3	平出 恵理	部長
★ 4	秋永 泰嗣	部長
5	伊藤 桃依	医員
6	佐藤佑太	医員
★ 7	鈴木みどり	週3日勤務

222

麻酔科

中期目標 5年後の目指す姿

DPC特定病院群病院を目指すならば
常勤麻酔科医10人が必要

DPC特定病院群を目指すのに手術件数の増加は必須であるが、増加する手術に365日24時間対応するためには最低10人の麻酔科医が安定的に必要である。

昨年度、当院の初期研修医1名が麻酔科を専攻した。経験に合わせた教育を行い、色々な形で麻酔科の魅力を発信して麻酔科医の獲得に努める。

224

麻酔科

令和3年度 目標

麻酔業務 日々の症例を大切に

項目	目標
1 麻酔困難症例に対する適切な対応	術前外来の充実と毎日のカンファランスの確実な実践
2 教育体制の強化	月1回の研修会の開催
3 月1回の研修会の開催	大学医局と交渉 選択ポリクリの学生、初期研修医に熱意を持って教える
4 新しい手術に対応	外科でいわゆるダ・ヴィンチ手術など
5 学会発表・論文作成	科で年に論文・学会発表を1つずつ

手術センターの運営 チーム医療の要に

項目	目標
1 手術件数の確保	手術件数 5000件／年目標 麻酔管理件数100件／年増やす
2 手術室枠の組み換え・効率化	稼働率の向上・11部屋稼働の開始
3 手術センターの安全性の向上	3 b 以上の事故「0」
4 老朽化した機器の整備	両病院からの持ち寄りの機械の老朽化を計画的に整備する

麻酔科

令和3年度 目標

ペインクリニック 新しい分野への開拓

項目	目標
1 難易度の高い神経ブロック・侵襲の高い治療へ挑戦	・ 高周波熱凝固装置 ・超音波診断装置、X線透視装置、CT撮影装置を用いたブロックを行います。 ・整形外科、放射線科など他の科と共同して難易度の高い神経ブロックや侵襲度の高い治療を行います。
2 緩和医療への参加	内山医師を週1回緩和ケア外来・緩和ケアチームへ派遣
3 疼痛カンファランス	麻酔科内のカンファランスの開始
4 日本ペインクリニック学会専門医 日本緩和医療学会認定医	日本ペインクリニック学会指定研修施設取得済 日本緩和医療学会認定研修施設へ

教育 麻酔科からの院内外へ情報発信

項目	目標
1 救急蘇生の講習会	院内 ICLSディレクター BLSインストラクター
2 院内教育へ発信 麻酔科ハンズ・オンセミナーの開催	研修医ばかりでなく上級医へも中心静脈カテーテル挿入法 ビデオ喉頭鏡による気管挿管
3 麻酔科専門医のための科内の情報共有	麻酔科危機管理マニュアルシートの作成

麻酔科

令和3年度 目標

アフターコロナの出口戦略

項目	令和2年度実績	令和3年目標
1 外来患者数	18.3人／日	20人／日
2 手術件数	416.8件／月	434件／月
3 全身麻酔手術	158.5件／月	170件／月

・4～6月は手術件数が12.3%、全身麻酔件数は22%減少したが、これらは**7月には完全に復活した**。
 ・感染患者でも今しなければならない手術は感染対策を万全にして実施する。
 ・術前に感染患者を完全に見つけるのは至難の技。引き続きこの精度を高める。
 ・機材ばかりでなく、薬剤も供給困難になる可能性があるので注意が必要である。

麻酔科

令和3年度 目標

今年度の課題

手術麻酔の充実

① 高齢者の麻酔

もともと高齢者、特に80歳以上の麻酔が多い。
 当然全身合併症が多く、高度な大動脈弁狭窄症など麻酔が困難な患者も多く、以前には整形外科の骨折の手術等で術式は可能でも麻酔のできない患者がいた。しかし、術前と同じQOLは得られないまでも骨折の痛みを治さない患者は疲弊する。

循環動態に影響の少ない麻酔薬（レミマゾラム）の発売や超音波下神経ブロック、外科系医師との協議の術式の変更などで重篤な合併症の患者にも麻酔が行えるようになり。患者のQOLの改善に役立つ。

麻酔のない手術はない！



今年度の課題

手術麻酔の充実

麻酔のない手術はない！

②産科救急への対応

産婦人科開業医から分娩異常の救急搬送も多い。

a Grade A 帝王切開

胎児心拍が低下し戻らない場合、ただちに（Grade A）緊急の帝王切開が必要となる。日勤帯はcallから20分以内に胎児を娩出可能。

時間外は麻酔科医・手術センター看護師は自宅待機などで来院する間 病院にいる病棟看護師、産婦人科医師で対応できるようシミュレーションを重ねて準備している。

b 大量出血への備え

前置胎盤の場合、既往のある帝王切開では放射線科医とも連携し、出血を減らすよう努めている。

9

今年度の課題

ペインクリニックの充実

内山医師が昨年度、日本ペインクリニック学会専門医、日本緩和医療学会認定医を取得したので、当院の麻酔科の魅力の発信に繋がる。

疼痛カンファランスの実施

緩和医療への参加

教育の充実・人員の確保

日本麻酔科学会指導医が5人→県内では5人以上いるのは浜松医大・県立総合病院・聖隸三方原病院と当院のみ

専攻医・初期研修医に麻酔の魅力を伝え、さらに人員の確保に努める

230

231

232



決 意

引き続き“手術を受けるなら中東遠”

安心して手術を受けられる体制づくりに努めます

静岡県地域がん治療連携推進病院

緩和医療でも力を發揮します

今年度も特に教育の側面から麻酔科の情報を発信
して、院内外に麻酔科の存在をアピールします

令和3年度 診療科目目標発表

リハビリテーション科 Department of Rehabilitation Medicine

リハビリテーション科



	氏名	役職
1	市橋 錠一	診療部長
2	渡邊 浩司	部長

234

リハビリテーション科

主な診療実績	R1	R2
外来患者数	0.3人／日	0.2人／日
疾患別リハ（入院）	4,060／月	3,771／月
疾患別リハ（外来）	439／月	379／月
リハビリテーション総合計画評価料 1・2（入・外）	648／月	601／月
退院時リハビリテーション指導料	157／月	164／月

主な診療実績	R3（4～6月）
外来患者数	28人／日
	560人／月
入院患者	約1,100人／月
リハビリテーション総合計画評価料 1・2 (入・外来)	約1,300件／月

233

リハビリテーション科

中期目標 → 5年後の目指す姿

リハビリテーション医療の充実と専門性の強化

- ・リハビリテーションスタッフの指導・管理
- ・リハビリテーション科・室の健全な収益増加
- ・他科医師への啓蒙、研修医・専攻医への教育指導強化
- ・専門外来の開設・拡充（2023年スポーツリハビリ外来開設予定）

235

236

1 医療の質

外来・入院を中心とした診療機能の強化
専門的なリハビリテーション医療の提供

項目		目標
1	他科へ適切なリハビリテーション医療の提供	リハ処方箋全例介入 カンファレンスへ参加
2	専門外来の開設	嚥下外来 5月 ボツリヌス治療専門外来 8月 義肢装具外来 6月 書類外来 6月
3	周術期リハビリテーションを徹底し、 術後合併症の減少と術後入院期間の減少	ICU・救急病棟へのリハ早期介入 土日リハビリの拡充 周術期リハビリテーションシステムの構築
4	リハビリテーション医療の質の向上	リハビリスタッフの人員増加・ 教育と指導

237

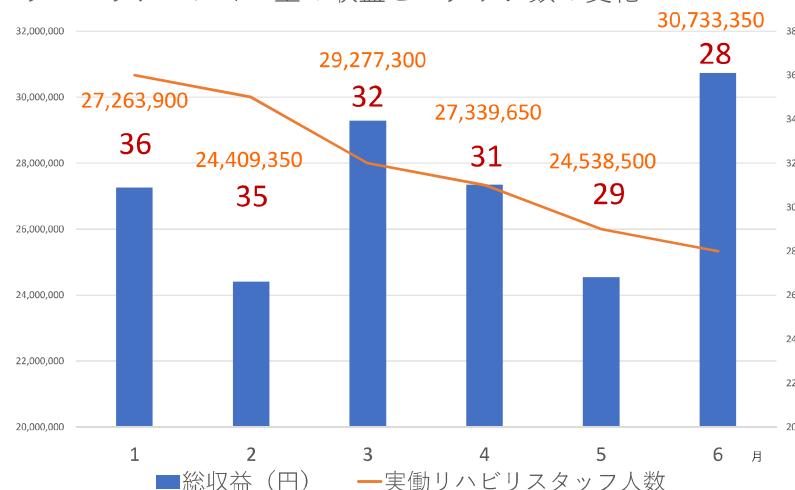
2 診療実績

専門的なリハビリテーション医療の提供
外来患者の増加

	項目	目標
1	心臓リハビリテーション外来の開始	15名/週を目標 (5月末より開始。7月時点 6名/週)
2	義肢装具外来の開始	20件/月 (6月開始。7月17件)
2	リハビリ前診察の全科受け入れ	4月下旬 整形外科受け入れ開始 6月中旬 全科の受け入れ開始
3	外来患者の増加	目標 45名/日 (7月 平均33.8名/日)
4	リハビリテーション室の収益増収	年間5000万以上

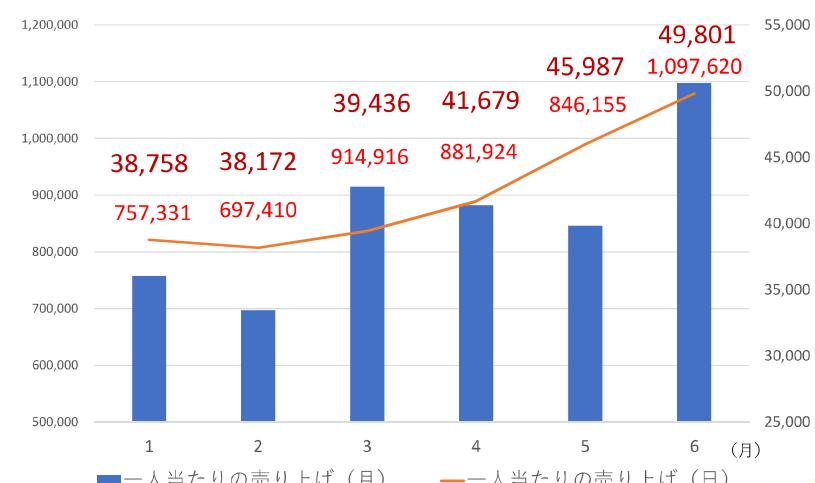
238

リハビリテーション室の収益とスタッフ数の変化



- 60 -

リハビリスタッフ1人の日・月の収益



240



リハビリテーション科

令和3年度 目標

3 教育研修 初期研修医への指導、専攻医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化 他病院との差別化を図り 研修医の確保につなげる
2	リハビリテーション科専攻医への教育を充実	専攻医プログラムへの参加 (浜松医科・名古屋大学)

リハビリテーション科

令和3年度 目標

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	外来患者数	0.2人／日	100人／日
2	入院患者数	0人／日	250人／日
3	新入院患者数	0人／月	1人／月

リハビリテーション科の病床の開設（2床）
嚥下検査1日入院の開始
ボツリヌス治療短期集中リハビリ入院の開始
外来患者の受け入れ制限解除（現在、人数制限中）

241

リハビリテーション科

決 意

地域住民の方が、
可能な限り住み慣れた環境で
自立した日常生活を営むことができ、
食べること、歩くこと、生きがいを持って
過ごせる生活を全力でサポートします。
あらゆる疾患に対する
質の高いリハビリテーション医療を提供し
地域医療に貢献します。

242

令和3年度 診療科目発表

歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery

歯科口腔外科



	氏名	役職	資格
1	夫 才成	診療部長	口腔外科学会専門医、インプラント学会専門医、医学博士
2	安藤 友二	部長	口腔外科認定医、ICD、医学博士
3	荻須宏太	医長	口腔外科認定医、医学博士
4	金子順哉	医員	口腔外科学会会員

歯科口腔外科

令和2年度 振り返り

「患者さんを笑顔で帰す」ために

歯科口腔外科

令和2年度 取組み

令和2年度

「効率を優先し患者を説き伏せ、次の患者を急いで呼び込む」、以前はこんな診療をやっていた。

自分の患者経験を通し、いわゆる「患者を回す」姿勢と決別を誓い

「患者さんを笑顔で帰す」ために診療体制を変更した。

詳しくは、お手元の資料をご覧下さい

令和2年度 診療体制の変更点

- ① 歯科医師、歯科衛生士、非常勤歯科医師を**増員**
- ② 予約初診と予約外初診の**担当医を分けた**
- ③ 医師事務作業補助者（MS）の外来参加

249

250

- ② 予約初診と予約外初診の**担当医を分けた**



初診担当医が“**待ち時間超過**”に追い込まれず
「患者を回す」状態から脱却

251

252

- ① 歯科医師、歯科衛生士、非常勤歯科医師を**増員**

Drの経験年数で役割分担し、上級医は**重症者**に集中
技量に応じた**適材適所の診療**が可能に

2ヶ月あった初診待ち→解消
Ope件数 →増加

診療実績	H30	R1	R2 (5月)	R2 (6月)	R2 (年間)
初診枠	104枠／月	104枠／月	152枠／月	152枠／月	152枠／月
初診患者数	186人／月	196人／月	194人／月	265人／月	223人／月
紹介患者数	148人／月	151人／月	165人／月	232人／月	186人／月
手術件数	43／月	39／月	27／月	55／月	54／月

- ③ 医師事務作業補助者（MS）の外来参加



初診医の事務負担は大きく軽減
→ 患者さんと、しっかり向き合えるように

令和2年度 患者満足度調査

総合評価 歯科口腔外科 4.24/5.0

**医師による診療・治療内容
医師との対話** 歯科口腔外科 4.5/5.0
歯科口腔外科 4.5/5.0

衛生士、MSのサポートによって実現

高評価をいただきました！！

253

(＊：達成度)

医療の質

	項目	目標
1	顎変形症	<ul style="list-style-type: none"> ・顎関節や呼吸に配慮した治療計画★★ ・骨切りの全行程に超音波骨切削器具を適応するための工夫★★★ ・近位骨片と下顎頭の再現性に配慮した術式★☆ ・移動計画におけるデジタル・シミュレーションの併用*
2	顎顔面骨折	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 経咬筋アプローチによる関節突起骨折手術★★ ➢ SMARTLock Hybrid MMFを使用した顎間固定*
4	インプラント	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 骨造成の術式改良（チタンメッシュの使用など）★★ ➢ Socket preservationの術式改善* ➢ ジルコニア上部構造の審美性改善*
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・周術期口腔機能管理の地域連携を確立* ・埋伏永久歯・開窓牽引を地域へ啓蒙し連携強化★★ ・歯の移植・再植の地域への啓蒙と連携強化★★ ・MIを目指した智歯抜歯時の隣接面カリエスに対する即時CR修復★★★ ・麻酔科医の不足を補完する自科麻酔*

今後も継続

254

教育研修

	項目	目標
1	若手歯科医師の認定医取得に向けて	申請要件に必要な学会発表 ➔達成
2	新人衛生士の資格取得に向けて	学会入会、学会参加 ➔達成
3	摂食・嚥下の資格取得に向けて	嚥下内視鏡の講習会へ参加 ➔継続
4	各学会の指導医、専門医取得に向けて	経験症例の蓄積、論文投稿 ➔継続
5	麻酔研修	麻酔専門医指導下の口腔外科疾患麻酔研修 ➔継続

255

診療効率

「患者さんを笑顔で帰す」ため、待ち時間改善に向けて

	項目	目標
1	初診	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージ導入 ➔QRコードへ変更 ・インプラントのパンフレット改訂 ➔継続 ・顎変形症パンフレット作成 ➔継続 ・拔歯パンフレット作成 ➔継続
2	再診	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 1枠に1人の予約システムへ変更 ➔達成 ➢ 同時間枠の重複予約を止める ➔達成

256

令和3年 口腔外科の取り組み

「患者さんを笑顔で帰す Vol. 2」

257

医療の質

教育、啓蒙活動に注力

	項目	目標
1	ホームページを全面改訂	<ul style="list-style-type: none"> QRコードによるアクセス数増 改訂作業を通じ、歯科医師間の診療内容の均てん化
2	多数歯欠損のインプラント費用を変更	<ul style="list-style-type: none"> 多數歯欠損患者さんへインプラント治療の可能性を拓く 症例増加による増益も目指す
3	周術期口腔機能管理の地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 原則、かかりつけ歯科へ逆紹介（テンプレート作成）
4	口腔管理と全身の関わりを教育・啓蒙	<ul style="list-style-type: none"> 口腔ケア説明会企画 職員に向けて開催（意義と依頼方法について） 説明により患者の行動変容につながる手応えを感じることができる
5	障害者歯科（歯科医師会）	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんが治療を受容できるよう成長する姿を見ることができる

259

教育研修

今年度の軸は「学び」

	項目	目標
1	定期抄読会、勉強会	毎月開催 テーマ： <ul style="list-style-type: none"> 咬合、頸関節、呼吸、嚥下 口腔粘膜疾患、前癌病変、早期癌 外科的歯内療法、顎微鏡下歯内療法 インプラント前外科としての骨造成 頸関節穿刺、蜂窩織炎の対応 顎矯正外科の分析/診断と治療計画 生物医学統計 など
2	ホームページ全面改訂に向けて EvidenceをUpDate	抄読会、勉強会のインプットを反映して 更新
3	口腔ケア説明会の準備	口腔と全身の関わりについて スタッフ勉強会
4	口腔外科疾患の病態、手術手技について 診療科 全体で共有	画像説明、手術手技等についてスタッフ勉強会
5	学会が主導する診療 ガイドライン 作成への参加	臨床疑問に対するSystematic Reviewの実践

259

260

診療効率

さらに「患者さんを笑顔で帰す」ために

	項目	目標
1	待ち時間の活用 1	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを改訂し、QRコードとリンク
2	待ち時間の活用 2	<ul style="list-style-type: none"> インプラント治療のパンフレット改訂 顎変形症パンフレット作成 顎関節症パンフレット作成 抜歯パンフレットを作成
3	歯科・口腔外科の専門職が集まるチームの 存在意義、目的意識 を共有する	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談 4回/年 全体会議 4回/年

歯科口腔外科

After コロナの出口戦略

令和3年度



目標

	項目	令和2年度実績	令和3年度目標
1	初診患者数	223人／月	225人／月
2	手術件数	54件／月	55件／月
3	周術期 初診患者数	39.8件／月	50件／月

- ① 「抜くしかない」と言われた**歯を残す**手術
- ② 残存歯を守る**インプラント**手術
- ③ 患者さんが**笑顔**になれる**インプラント**手術、**顎変形症**手術
- ④ **健康寿命**を延ばす**口腔管理**の教育・啓蒙活動
- ⑤ **周術期**口腔機能管理の**地域連携**

歯科口腔外科

中・長期目標

5～10年後の目指す姿

オーラルフレイルを防ぐ中核病院の機能を獲得

「歯を抜く」よりも**「歯を残す」**手術が多い未来

健康寿命を延ばし、シニアでもアクティブに活躍できる街づくりに貢献

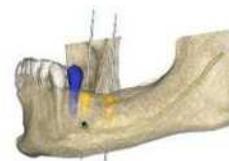
障害者歯科協力医を増やし、障害の有無に関係なく歯科治療を受けられる地域へ

インプラント研修施設認定、インプラントセンター開設
→ 地域に**インプラント専門医**を養成する

歯科口腔外科

(診療科の特色・力を入れている取り組み)

高精度・低侵襲治療



PIEZOSURGERY® touch



歯科口腔外科

(診療科の特色・力を入れている取り組み)

顎変形症の外科手術



治療参加型の障害者歯科研修



周術期口腔機能管理



総合病院の口腔外科として

口腔外科の医療を通して

地域の**健康寿命**を延ばすことには
貢献したい

266

決 意

患者さんと心を通わせる「時間」を確保し
患者さんを**笑顔**で帰す

患者さんが笑顔で帰れる**結果**を提供する

267

268

令和3年度 診療科目標発表

救急科 Emergency and Critical Care Medicine

269



救急科



	氏名	役職	資格
1	松島暁	部長（診療科長） 兼 救命救急センター長 兼 ICU・CCUセンター長	救急科専門医 集中治療専門医 医療安全管理責任者
2	浅田馨	部長 兼 ICU・CCUセンター長	救急科専門医 集中治療専門医
3	大林正和	部長 兼 救命救急センター副センター長 兼 研修センター副センター長	救急科専門医 集中治療専門医
4	是永真甫	医員（救急科専攻医）	

救急科

2020年度 ➤ 目標

1. 地域医療への貢献

新規手術・ハイリスク手術を躊躇しなくてよい環境の整備
救命救急入院料・特定集中治療室管理料の増加

2. 誇りと生きがいが持てる病院の創造

チーム医療の強化
救命救急センターの充実度評価の向上
ドクターカーの運用準備
産休・育休の積極的取得

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

救急科専攻医を確保する
各種学会の専門医を育成する

272



救急科

2020年度

目標

1. 地域医療への貢献

項目

項目	結果
新規手術・ハイリスク手術を躊躇しなくてよい環境の整備	術後予定入室患者の減少なし
救命救急入院料・特定集中治療室管理料の増収	8,150万円の増収

結果



術後予定入室患者の
減少なし



8,150万円の
増収

273



救急科

2020年度

目標

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

項目

項目	結果
救急科専攻医を確保する	1名
各種学会の専門医を育成	1名 (集中治療専門医)

結果



1名



1名 (集中治療専門医)

275



救急科

2020年度

目標

2. 誇りと生きがいが持てる病院の創造

項目

項目	結果
チーム医療の強化	静岡県内 5番目 (前年度6番目)
救命救急センターの充実度評価の向上	ドクターカーの運用準備



静岡県内**5番目**
(前年度6番目)

ドクターカーの運用準備
準備開始

産休・育休の積極的取得
1名取得 (3ヶ月)

274



救急科

2020年度

目標

アフターコロナの出口戦略

	項目	令和2年度目標	令和2年度実績	令和3年度目標
1	救急搬送応需率	96%	96.0%	97%
2	救命救急入院料算定率	80%	78.2%	80%
3	特定集中治療室管理料算定率	90%	95.1%	95%

276





中期目標

5年後の目指す姿

1. 地域医療への貢献

全科の医師を充足させる
救急医療をオール中東遠で支える
DPC特定病院群にジャンプアップする
経常収支の黒字化を達成し持続可能な病院運営を実現する

2. 誇りと生きがいが持てる病院の創造

県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する
時間外勤務を月60時間以内にする

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

専攻医（3～5年目の医師）を20名以上にする
救急科領域の専門医研修における基幹施設になる

277



2021年度

目標

1. 地域医療への貢献

静岡県新型コロナウイルス感染症対策本部からの要請に応じて、当院での治療が必要な患者は全て受け入れ、治療に全力を尽くす
医師充足への一定の道筋を付ける（心臓血管外科など）
手術件数（手術室内）を5,200件/年以上とする
経常収支を黒字化する

2. 誇りと生きがいが持てる病院の創造

6) 時間外勤務月60時間超の医師を7人未満とする
8) すべての職員が有給休暇を14日以上取得する

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

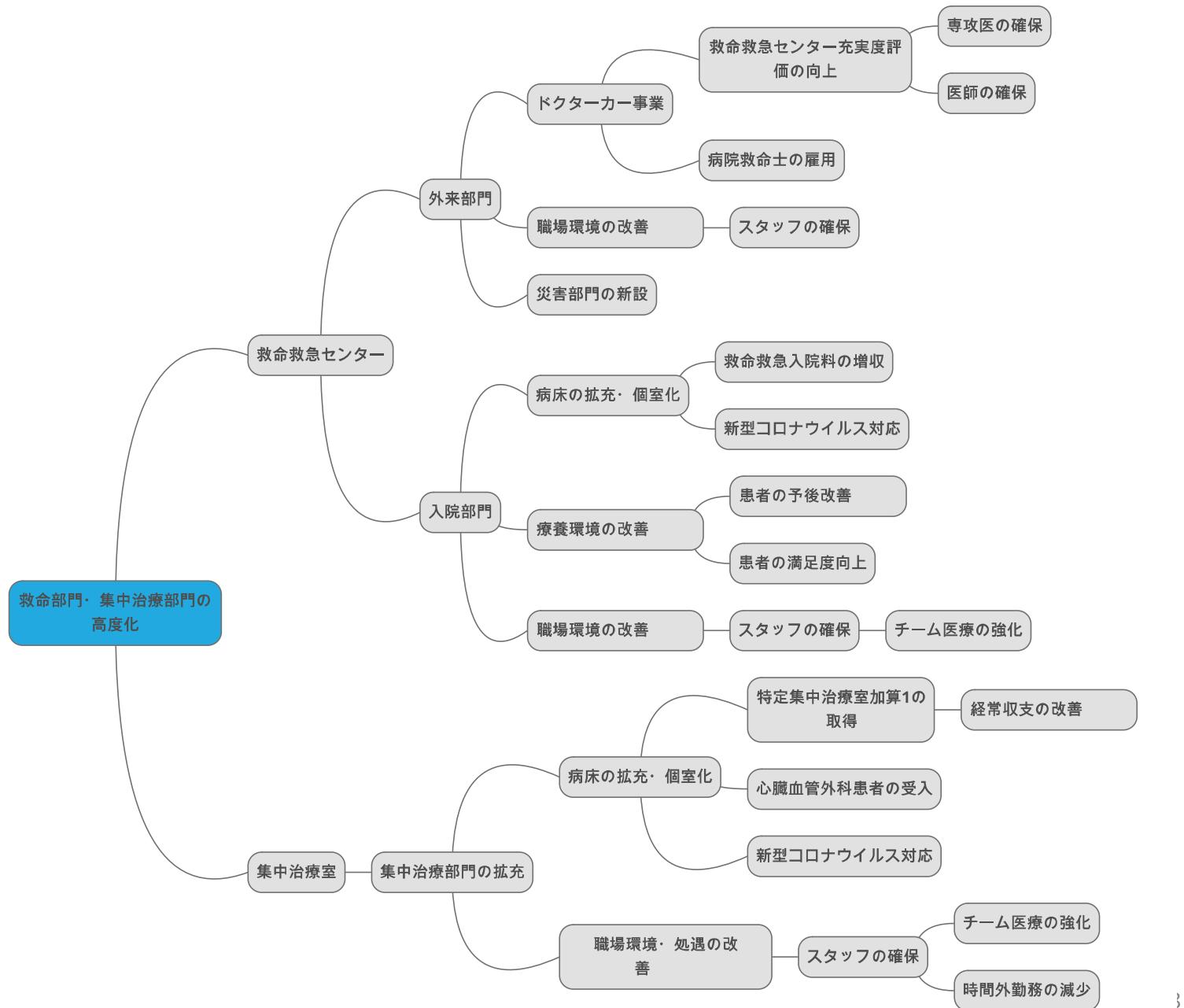
1) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する
2) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
3) 研修目標達成の評価点数を全診療科4点以上とする

278



279

280



2021年度 診療科目標発表

企業長兼院長

President & Director

宮地 正彦

企業長兼院長

2020年度の取り組みの結果(2) <癌診療、救急医療について>

目標	評価	内容
癌診療の充実	◎ △ △ ○ ○ ◎	がん拠点病院指定の可能性高い。 癌関連手術の減少 (胃癌、大腸癌、肺癌、乳癌手術) 外来化学療法室稼働増加 放射線治療数の減少 皮膚科悪性黒色腫手術数増加
救急医療の維持、向上	◎ ○ ○ ○ △ ○	救急医の機能アップ、稼働アップ 全科医師による救急医療 専攻医の救急直稼働持続 脳死移植1件 救急車数の減少: 6228→4782台 軽症患者の減少

企業長兼院長

2020年度の取り組みの結果(1) <医師確保について>

目標	評価	内容
常勤医師数の増員・確保	X △ △ XX ○ ○ ○ △ ○ ○	消化器内科医減少のまま 放射線診断科医不足のまま (浜医の強力サポートあり) 総合内科機能強化 血液内科医再び欠員 アレルギー疾患研究センター開設 癌治療、アレルギー専門皮膚科医 股関節専門整形外科医確保 内科専攻医2名 整形外科専攻医1名 救急専攻医1名
心臓外科医の開設	○	来年4月から稼働開始

282

企業長兼院長

企業長兼院長

2020年度の取り組みの結果(3) <教育について>

目標	評価	内容
教育の強化 (4年間継続強化の効果)	◎ ↓ ○	2週間以上の実習学生数の 増加(0→24人) マッチング希望者数の 増加(18→45人) 見学学生数の増加(62→123) 全職員に教育向上を徹底・実行
大学との連携強化	○ ↓ ○	6大学との実習教育の連携 名古屋大学との共同研究増加 浜松医大の放射線診療・教育の サポート 治験管理室の機能強化

284

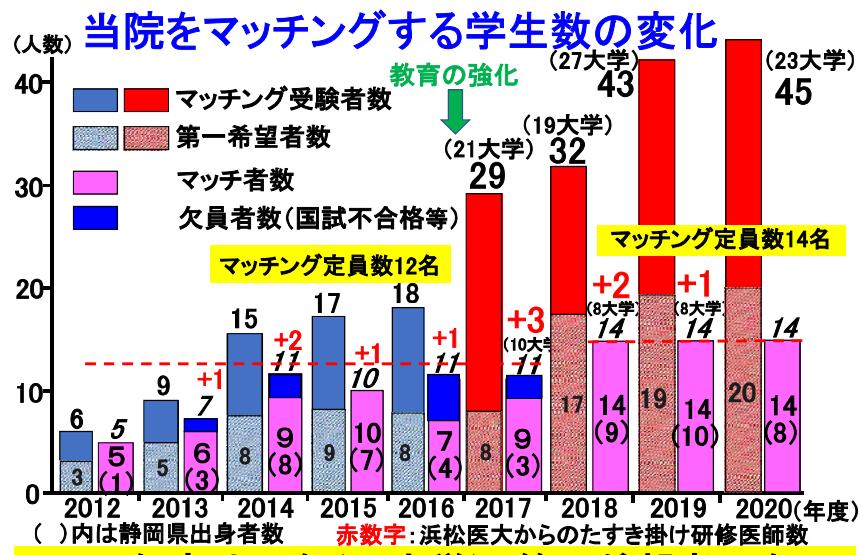
企業長兼院長

2020年度の取り組みの結果(4)

<経営について>

目標	評価	内容
経営の赤字からの脱却	◎ ↓ XXX	経常損益で大きな赤字 (+1億円から-12億円)
支出の削減	○ ↓ ◎	電子カルテ一式約13億円減額 維持費も減額
給付金の獲得	◎	多額のコロナ給付金
入院単価の向上 外来単価の向上	◎ ○	65,732円から71,989円とアップ 14,751円から15,510円とアップ
入院稼働率の向上:90%	△→X	86.9%から71.7%へと低下

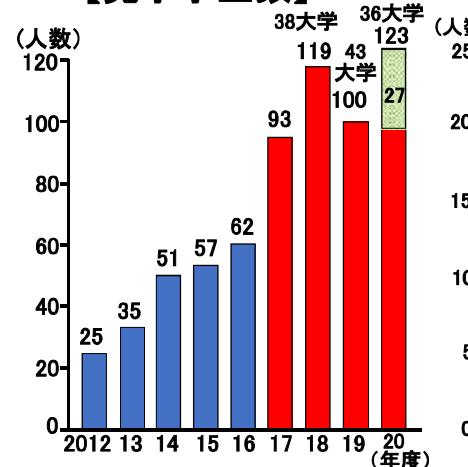
285



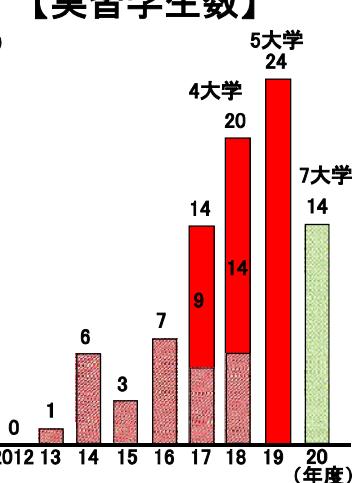
287

当院を見学・実習する学生数の変化

【見学学生数】



【実習学生数】



コロナ禍で見学、実習ができるなかった学生
名古屋大学から1週間のみの
救急実習学生

286

Chutoen General Medical Center

2020年度の目標

1 地域医療への貢献

- (1) 医師不足への一定の道筋を付ける
(血液内科の安定維持、消化器内科の増強、放射線科の安定強化)、心臓外科の開設
- (2) DPC特定病院群の基準をクリアする
- (3) 地域がん診療連携拠点病院の指定基準を満たす(精神科医の確保)
- (4) がん治療件数を10%増加させる(癌登録950件から1050件へ)
- (5) 紹介件数を前年度より3%増加させる
- (6) 手術件数(OPE室内)を5200件／年(440件／月)以上とする
- (7) 人間ドック稼働を前年度より3%以上向上させる
- (8) 外来患者の8割以上の診察待ち時間を1時間以内にする
- (9) 外来患者の8割以上の会計待ち時間を10分以内にする
- (10) 障害者アスリートのサポートを具体化する
- (11) 経常収支を黒字化する

2 誇りと働きがいが持てる病院の創造

- (1) 待ち時間に対する患者評価を前年の3.04から3.50までに向上させる
- (2) 職員意識(意欲と満足度)を前年より向上させる
- (3) 業務の効率化と人員配置の適正化により職場環境を改善する
- (4) 機能評価の認定を受ける(更新)
- (5) 病棟編成を検証し、再編する
- (6) 病棟ルールを統一する
- (7) 時間外勤務を月80時間以内にする
- (8) 院内保育園受け入れ稼働を90%以上とする

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- (1) 当院で研修する専攻医を8人以上確保する
- (2) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
- (3) 認定看護師等、各種資格者の育成を実行する
- (4) 病理解剖を10件以上実施する

288

Chutoen General Medical Center

2021年度の目標

1 地域医療への貢献

- (1)静岡県新型コロナウイルス感染対策本部からの要請に応じて、当院での治療が必要な患者は全て受け入れる。
- (2)地域がん診療拠点病院の指定を受ける
- (3)医師充足への一定の道筋を付ける（血液・腫瘍内科、消化器内科、放射線科、心臓血管外科）
- (4)1日当たりの入院患者を400人以上とする
- (5)DPC特定病院群の基準のクリアを目指す
- (6)紹介件数を24,000件／年(2,000件／月)以上とする
- (7)がん登録件数を1,200件以上とする
- (8)手術件数(手術室内)を5,200件／年(434件／月)以上とする
- (9)手術件数(血管造影室内)を1,200件／年(100件／月)以上とする
- (10)人間ドック件数を13,000件／年(1,083件／月)以上とする
- (11)経常収支を黒字化する

2 誇りと働きがいの持てる病院の創造

- (1)外来の患者満足度(当院を嬉しい人にすすめるか?)を4.00以上とする
- (2)入院の患者満足度(当院を嬉しい人にすすめるか?)を4.45以上とする
- (3)職員意識調査(意欲と満足度)における活性型職員を50%以上とする
- (4)外来患者の85%以上は診察待ち時間を1時間以内とする
- (5)外来患者の85%以上は会計待ち時間を10分以内とする
- (6)時間外勤務月80時間超の医師を7人未満とする
- (7)医師以外のすべての職員の時間外勤務を月80時間未満とする
- (8)すべての職員が有給休暇(年休、夏期、リフレッシュ)を14日以上取得する
- (9)病児保育を開始する

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- (1)当院で研修する専攻医を7人以上確保する
- (2)優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
- (3)研修目標達成の評価点数を全診療科4点以上とする
- (4)全職種の資格取得計画を作成し実践する
- (5)特定認定看護師研修開始を1人以上とする
- (6)認定看護師育成計画を策定し候補者3人以上を選定する
- (7)病理解剖を上半期6件、下半期6件以上実施する



企業長兼院長

新型コロナウイルス感染者への対応、評価

- (1)第1波から今まで断らない医療で対応:○
→当該地域だけでなく、他の地区の感染者にも対応
- (2)院内感染対策:PCR検査、ゾーニング、個室対応:◎
⇒院内感染を起こさず、地域医療を継続した。
- (3)消耗品(マスク、ガウン、検査薬など)の備蓄:◎
⇒海外産から国産に変えつつ、効果だが多経路で入手
- (4)感染者対応療養施設の運用、自宅療法の管理
→無症状者・軽症者を院外で診る。人力、物の節約。:◎
- (5)経営状況の悪化:2020年度約12億円の赤字:XX
→4月から6月まで22500万円の赤字。
⇒単月黒字を目指す。
⇒コロナ対応し、やるべきことをやる。コロナ禍に甘えない。

入院患者数400人/日、平均在院日数9.0日、

入院診療単価75,000円、外来診療単価16,000円

中期目標(2019~2024年)

- 1. トップクラスの診療・教育にふさわしい全科医師数及び質の向上
- 2. 3~5年目の研修医を20名以上
- 3. 外来患者の9割以上の診察待ち時間を1時間以内
- 4. 職員の時間外勤務をすべて60時間以内
- 5. 院内保育所で5歳児まで預かるように
- 6. 外科での基幹施設認定(心臓外科、呼吸器外科の開設)
- 7. DPCの標準病院から特定病院へのジャンプアップ
- 8. がん診療拠点病院の指定獲得
- 9. スポーツ医療関連センターの設置
- 10. シミュレーションセンターの設置
- 11. 災害・救急医療のためのスマートインターの設置確定
- 12. ドック受診者数を100人/日へ増加
- 13. 累積欠損金12億円から余剰金プラスへ



企業長兼院長

決 意

- ・全職員一丸となり、新型コロナ感染禍に対応しつつ、甘えず、逃げず、行うべきことを行い、地域医療に責任を持って、貢献する。
- ・新型コロナ感染禍、その後の変化に、柔軟に対応し、新しい組織つくりに躊躇しない。
- ・日本トップクラスの教育、臨床医療のできる病院をつくる。

